

2022（令和4）年度  
事業計画書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

## 2022 年度事業計画目次

	ページ
◆ 法 人	1
成年後見制度推進委員会	15
神戸聖隷歴史資料館	17
◆ 但馬地区	
平生園	19
わらしべ	24
さくらの苑	28
恵生園	32
真生園	36
和生園	41
北但広域療育センター	46
エスポワールこじか	51
◆ 神戸地区	
神戸聖生園	55
グループホームせいれいやまて	59
グループホームたいのはた東	62
神戸愛生園	65
きたすま障害者相談支援センター	69
神戸聖隷総合相談センター	73
神戸友生園	77
グループホーム南落合	81
神戸光生園	83
グループホームみなみたもん	87
グループホームふくだ	89
神戸明生園	91
ケアホームきたすま	95
神戸市立ワークセンターひょうご	97
しごとサポート中部	
神戸障害者就業・生活支援センター	
障害者雇用就業・定着拡大推進事業	
グループホームアリエッタ北須磨	103
ひょうご障害者相談支援センター	107
神戸市障害者基幹相談支援センター	
神戸市発達障害者中部相談窓口	
ひょうごデイサービスセンター	112
神戸市立自立センターひょうご	117
ワークセンターわかまつ	121
せいれいやさかだい	125
グループホームのぞみ	131
◆ 事業計画別表 1 (事業目標)	134
◆ 事業計画別表 2 (設備整備計画)	136

## 2022年度 事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
理事長 水野 雄二

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。」(ローマの信徒への手紙5:3~4)

### 1. はじめに

2020年初頭から続くコロナ禍がまだ終息しない状況で、私たちは2022年度を迎えます。コロナウイルスに関わらず、社会福祉を取り巻く環境が大きく変わろうとする中、全国の社会福祉法人は等しくそのあり様を問われています。高齢化が進み、多様な福祉課題が表出する地域共生社会をどのように実現するか、安定した財政をどのように守り持続可能な法人として維持するか、先を見据えた人材確保と育成をどのように図るかなど、多くの課題に対応することが求められます。地域のセーフティネットとしての役割を果たすため、他の法人とのネットワークも活用しつつ地域での役割を果たしていく時代となりました。

2021年度も神戸聖隷は新型コロナウイルスによって施設運営に多くの困難と教訓が与えられました。職員の懸命な感染防止対策やご利用者支援にもかかわらず、すさまじい感染力のウイルスと感染症は施設内にも容赦なく入り込みました。本年度もその経験や学びを活かした対応が継続されなければなりません。緊急事態に備える重要性を更に意識し、事業継続計画(BCP)を精査することを通して、コロナウイルス対策に限らず、近く起こる可能性のある大規模災害にも備えていきます。

2022年度は第4期中期計画の最終年度となります。過去2年の歩みを継承し、計画の完遂を目指すと共に、続く第5期中期計画の策定に取り掛かります。長く続くコロナ禍は業務のノウハウも変化を強いることになりました。幸いにもこれを契機に業務のデジタル化が一挙に進み、リモート会議やロボット・ICT活用の業務や支援活動などデジタル活用が進んでいます。この傾向は業務の効率化や省力化をもたらし、ひいては生産性の向上にも繋がっていきます。本年度も更にこの方向性を進め、業務の生産性を高め、人材の有効活用を図ります。

厳しさが続く人材確保と養成の課題にも積極的に取り組み、継続して職員募集活動に注力していきます。多様な人材の働きが強められるように、女性活躍の方策や外国人働き手へのアプローチ、次世代を担う人材養成に挑戦していきます。また、経営職層の世代交代が喫緊の課題です。前年度から取り組む次世代経営職層育成のための試みを継続し、意識的な世代交代を図ります。

コロナ禍が続く世界、日本、地域社会にあって、多くの人々が今なお、コロナウイルスへの恐怖や不安を持ち続け、苦難、忍耐の中におられます。しかし、私たちは、苦難や忍耐が「練達」を生むことを知っています。「練達」とは、コロナ禍の困難に立ち向かった経験から得た知恵や工夫、そして行動です。苦難や忍耐に対する\*レジリエンスでもあるでしょう。そして私たちはそのレジリエンスが希望を生むことも知っているのです。神戸聖隷もまた、苦難、忍耐の時こそ、理念に立ち返り、希望ある一年を過ごしたいと願っています。

(注：\*レジリエンス＝「回復力」「しなやかさ(弾性)」を意味する。)

## 2. 4中計に基づく推進部事業計画

理念理解定着部 2022年度事業計画

### 中期事業目標① 創業50年に向けて、神戸聖隷ミッションの深く広い浸透をめざします

理念理解定着部会は、2017年度から活動を開始し、法人基本理念の浸透と定着をめざして歩みを進めています。2021年度は長く続くコロナ禍のために他法人理念研修とタイでの海外研修を実施することができませんでしたが、2022年度も同様に海外研修を断念することとしました。しかし、その中でも取り組むべき活動については積極的に継続し進めていきます。キリスト教に基づく基本理念について、分かりやすさ、親しみやすさを求め、基本理念の唱和、年間聖句の掲示などと共に「神戸聖隷ハンドブック」活用を図り、更に改訂第3版の作成に着手します。

また、法人マスコットキャラクターを活用したグッズの作成、職員報発刊、法人紹介DVDの制作などを通して関係する多くの方々に基本理念に触れていただく機会を増やすと共に、職員に向けては、各施設での理念研修やキリスト教福祉基礎研修を充実します。

来る2025年度の創業50年を念頭に歴史資料の収集を継続します。創業に関わった先人のインタビューの収録、またご利用者や職員から心に残った特別なマイストーリーのインタビュー収録を通して、法人理念に触れ、また考える機会を創出します。そのインタビューで語られるストーリーの根底に法人理念への豊かな関わりがあると確信します。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を日常的に考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるように、2022年度も法人全体として理念浸透に向けて多様なアプローチを続けていきます。(水野雄二)

職員育成推進部 2022年度事業計画

### 中期事業目標② 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

昨年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響により学校訪問への制限や採用試験、職員研修などが全てオンラインでの実施となるなど対面での温度感を伴った関係づくりが困難な一年でした。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大による影響を残しながらになるかとは思いますが、オンラインによる利点も活かしつつ可能な範囲で対面での活動を取り入れていきます。

福祉人材の確保については、引き続き積極的に学校訪問を実施し、その際に可能な範囲で各施設からの協力を得てそれぞれの学校の出身職員の同行による訪問活動を行い、学生に対し親近感に繋がるよう取り組みます。また、就職フェアなどの就活者と出会う機会についても積極的に参加し、求職者との接点を増やします。今年度はこれまで以上に専門学校等への訪問を増やすことや外国人人材の活用など多様な人材の確保について取り組みます。

第4期計画において着手できていない実習に係る取り組みについては各事業所の実習受け入れ状況の把握と実習担当者との情報共有を行い、実習生にとってより満足度のある実習提供に繋げていくことを目指します。

法人内部研修については、従前からの階層別研修や昨年度から取り組んでいる事業種別研修のほか、人事・労務・危機管理部と連携し現行のキャリアパスの研修について再構築を図るとともに次世代育成、女性活躍に軸足を置いた取り組みを進めていきます。

社会福祉充実計画のなかで取り組んできた職員の自主的な研修参加のための費用助成については、職員育成推進部の取り組みとして位置づけ継続します。(有川洋司)

QOL推進部 2022年度事業計画

**中期事業目標③ ひとり一人の居場所をていねいに作り、安心安全な生活を提供します**

QOL 推進部の第 4 期中期計画の最終年は、各施設が年間の動きを確認するための「施設セルフチェックシート」を 2022 年 3 月に提示し、今年度の使用を促します。

第 4 期中期計画期間の半分以上が新型コロナウイルス感染症の中での活動となりそうですし、利用者に安心安全な QOL の向上につき提供出来ていないこともあると思います。その中で職員集団が精いっぱい努力を重ねていけるようにチェックシートなどの結果に目を凝らし、施設、職員のそれぞれの気づきに推進部が助言をおこないます。

サービスの評価と向上については、これまで計画実施してきました第三者評価受審 3 施設の実施、満足度調査集計結果を共通シートでの HP 公表し自己評価の機会とし、接遇アップキャンペーンで気づきと法人アピールの機会とします。

虐待防止への取り組みについては、年 2 回の虐待防止セルフチェックリストの継続実施、さらにセルフチェックリスト施設評価・対策シートを作成し問題点を見つけます。虐待防止基準表・判定表を虐待防止の研修の一環として実施したいと思います。

高齢化への取り組みについては、神戸地区での通所利用者の高齢化対策への問題提起をおこないます。事故検証へのアプローチにつきましては法人本部で使用予定の稟議書電子決裁における事故報告書を活用し改善方法を探ります。(種谷啓太)

経営強化推進部 2022 年度事業計画

**中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます**

新型コロナウイルス感染予防への継続した対応等、依然厳しい状況が見込まれますが、中期事業目標達成のための二つの重点実施項目に対し、以下の取り組みを中心に活動します。

「安定した事業収入の確保」に向けて、各事業の年度目標（利用人数、給付費収入）に対する達成状況を全ての管理職に毎月フィードバックし、課題改善に向けた早期の取り組みに寄与すると共に、担当理事による予算ヒアリング・中間決算ヒアリング等に分析データを提供し、目標値達成に向けた対策の共有・提案を行います。

「ICT 化等による業務の効率化、省力化」に対しては、先進福祉機器の更なる整備を推進すると共に、AI・ICT 化に関する市場の情報収集・提供に努め、事業所のニーズに応じて機器導入に向けたサポートを行います。導入後 5 年が経過した支援記録システムは、各施設の活用推進担当者が基礎をマスターし、新入職員に入力方法を指導出来るレベルになりました。今後は各施設の必要に応じた学習会やリモート指導等に向けたフォローを行い、システムが持つ各種機能の活用については、導入施設での実践事例報告会を通して機能の把握・共有に努め、業務の効率化と利用者支援の充実に繋がります。

法人内主要会議は OneNote を使用したペーパーレスでの web 会議、また、各種書類の電子印鑑決裁が定着化してきました。昨年度導入したグループウェア「デスクネッツネオ」に新たに課長を加えたワークフローシステムを構築し、稟議書をはじめ各種書類の施設内電子決裁への運用拡大を図ります。また、一昨年より取り組んできたケース記録電子印鑑決裁の全施設での実施とペーパーレス化も含めた施設内各種書類での実践に繋がっていきます。(西山充)

地域貢献推進部 2022 年度事業計画

### 中期事業目標⑤ 誰もがつながり支え合う地域の実現をともに創る資源となる

地域におけるセーフティーネットとしての取組みでは、2024 年度に完全義務化される障害福祉サービス事業所等における事業継続計画（BCP）策定について、法人全事業所の計画策定をリードしながら、法人 BCP 策定に向けて人事・労務・危機管理部会「リスクマネジメントチーム」と協働して、上半期で計画体制を整えて下半期には検証、更新するスケジュールで取り組みます。災害時の体制整備では法人外関係機関と連携して「DWAT」への協力を進めます。また、制度の狭間にある支援として生活困窮者支援「フードバンク活動」に取り組みます。

地域のニーズに応じた支援活動の実施では、地域ニーズの情報収集方法と支援内容の見極めに継続して取り組みます。

地域住民と積極的に交流する活動実施では、各施設・事業所でコロナ禍以前から取り組んできた活動のほぼ全てが中止となっている現状から、「ウィズコロナ」・「アフターコロナ」の中で各地区の交流スペース地域開放、ボランティアの積極的な受入れと仕組み作りの再開準備と実施を支援協力します。特にボランティアの受入れ再開では新たな受入れマニュアル（ひな型）を提案します。

高齢者・障害者への理解促進に向けた取組みでは、福祉教育活動の再開と継続実施に協力します。広報の充実と活用では、特にホームページのタイムリーな情報更新、新ページの作成、全体リニューアルの検討を継続します。

コロナ禍で身近な地域との関わりも元にはできない状況ですが、地域に暮らす人々が「支え合う」関係を探る取組みを継続していきます。（加藤成久）

人事・労務・危機管理推進部 2022 年度事業計画

### 中期事業目標⑥ 持続的発展を担う組織基盤の確立を目指します

多様な働き方と適切な処遇制度の整備については、現行ラダーの中で自身のキャリア形成を目指せるように、職員育成推進部の協力を得て現行のキャリアパスの研修部の再構築に取り組みます。人事考課はその業務をクラウド化して円滑な上司の面談、評価をサポートします。また、公正な評価結果に基づく人事考課結果の給与反映等の検討を続けます。これまで、地区を越えた異動を前提としていた正職条件は、多様な働き方の観点で見直す方向です。新たな処遇改善支援事業と新規加算を用いて、課題が見つかった賃金制度の改革を図ります。あわせて、検討を続けてきた課長手当を改善し、管理監督者に位置付けられる定義づけを行います。

働き方改革分野では生産性の向上が必須となっています。QOL 推進部のテーマである安心してサービスをご利用いただくこと、その目的に沿った効率性の高い業務の進め方を追求すること、依然として時間外労働の多い一部の業務の内容と働き方の改善を管理監督者と連携して取むこと、次世代育成支援対策推進法と女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画として掲げた管理職層における女性割合を改善すること、創設される産後パパ育休の活用で男性の育児休業取得率の向上を図ることが課題です。この分野でも職員育成推進部と連携します。

次世代経営職層の育成のために創設した経営諮問委員会と、同委員会への施設長の陪席による経営と執行の攪拌の仕組みのメリットを活用して、世代交代の在り方を検討します。併せて、専任理事が推進部の枠を超えて協働することで、職員確保育成、支援サービスの向上との整合、財務管理の強化など社会福祉法人に求められる内部統制体制のチェック機能を推進し、発見した課題に取り組みながら、新しい法人経営モデルを示します。（吉田和夫）

2022年度事業計画と推進策（理念理解定着部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
体感する機会を創出し、提供する。 キリスト教価値観と出会い、親しみ、	分かりやすさ、親しみやすさを求め、日常化を推進	基本理念の掲示、唱和推奨	全施設での掲示、唱和
		年間聖句の掲示	全施設での掲示
		法人マスコットキャラクターの活用	グッズ（第2弾）作成
	研修や集会でのツール作成	神戸聖隷ハンドブック活用	第2版の活用継続と第3版の制作
	幅広い関係者を対象とした理念表出	理念講演会の開催	山形氏講演会講演録作成 2023年以降の講演会準備
各種の理念研修を企画し、実施する。	初級職員や臨時職員を念頭に置いた研修	各施設での理念研修協力	3~5施設で実施
		キリスト教福祉基礎研修実施	但馬、神戸で実施
	キリスト教主義の他法人理念研修	他法人理念研修の開催	神戸（9月）、浜松（1月）で実施・新規他法人研修実施 （コロナウイルス感染状況で開催可否を判断）
	海外での理念研修	タイでの海外研修の開催	コロナウイルス感染状況によらず中止 法人紹介DVDの有効活用 DVD（英語版）の作成
創業50年に向かう新しい時代への対応を試みる。	職員報の継続発刊	職員報作成継続とデータ保存・活用化	年2回の刊行（8月、3月）
	創業50年を念頭に置いた史料収集	創立者インタビューの保存	年2~3人の収集
		神戸聖隷My story収集	My story収集（インタビュー）継続
	海外研修将来検討	新規海外研修の研究	実施要項の検討、準備
その他	その他	QOL 部会との連携	合同ミーティングの成果発信

2022 年度事業計画と推進策（職員育成推進部担当）

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
人材確保に向けた組織整備・環境整備	学生・就活者と現場で出会う機会の整備・充実	①各施設の現場実習受入れ体制確立と確認 実習受け入れ体制および受け入れ状況の調査 ②実習指導モデルの確立 実習指導担当者等との情報共有・意見交換実施 実習指導モデルの検討 ③大学・各種学校訪問の充実 新規開拓を含め出来るだけ多くの訪問を実施 ④大学・各種学校の担当教員との繋がり強化 OB の同行について各施設の協力を得て訪問実施 ⑤神戸常盤大学との協働
	法人を知ってもらう機会の整備・充実	①Web 求職サイトの活用 掲載内容について定期的な更新実施 ②各種就職フェアへの出展 Web での出展も含め出展機会を増やす ③学生・求職者の見学説明会の実施 但馬・神戸の各拠点で定期的に見学説明会を開催
	採用試験エントリーに繋がる仕組み作り	①採用試験受験エントリーページの作成と活用 ②選ばれる募集要項の作成 職種ごと・目的・用途などに応じたレイアウトの刷新
職員育成のための環境整備	法人内部研修の充実	①既存各内部研修のブラッシュアップと報告・共有 ②既存の法人内部研修に新研修の取入れ 事業種別研修の継続 ③各研修に理念研修プログラムの取入れ 各研修のプログラムに取入れ継続 ④自主研修参加助成の継続 ⑤人事・労務・危機管理担当との協働 キャリアパスに係る研修の再構築 一般事業主行動計画の目標達成にむけた研修の実施
	各研修への参加し易さの追求	①研修実施場所の検証 オンラインによる研修の際の受講場所の検討と環境整備 ②各研修年間計画の共有 内部研修一覧表の作成と共有 ③研修実施方法の新提案 オンラインと対面による研修の併用



2022 年度事業計画と推進策 (QOL 推進部担当)

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022 年度計画
サービスの評価と向上	サービスの評価（自己チェック体制確立）	①第三者評価の受審と評価	①恵生園、神戸聖生園、ひょうごデイサービスセンター受審 ②自己評価、改善策報告実施
		②満足度調査実施	①満足度調査実施 ②満足度調査項目の再検討
		③接遇ハンドブック活用	①接遇キャンペーン年 3 回実施
虐待防止への取り組み	虐待防止チェックリスト実施と集計	①年 2 回の実施	①年 2 回の実施
	困難事例への対応（職員が受けるセクハラ・パワハラ対応について）理念理解定着部会と合同	①困難事例への対応共有会実施	①困難事例への対応の共有会の実施
	虐待防止基準表・判定表の事例学習会継続	①年 1 回以上の基準表・判定表に基づく事例学習会の実施	①年 1 回以上の基準表・判定表に基づく事例学習会の実施
高齢化への取り組み	高齢化への取り組み	①高齢化に対する利用指針作成	①第 5 期中期計画での神戸地区での高齢化対策の検討
	事故検証へのアプローチ	①再発防止策へのアプローチ	①稟議書電子決済における事故報告書の活用方法の検討

2022 年度事業計画と推進策（経営強化推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022 年度計画
安定した事業収入の確保	各事業の年度目標値達成に向けた働きかけ	各事業の目標値（利用延人数・給付費収入）に対する月次実績チェック	①利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成状況を把握 ②各施設（事業）の管理職に目標値達成状況をフィードバック
		予算ヒアリング等に分析データの提供、目標値達成に向けた対策の共有と提案	①各施設（事業）の実績を把握し、担当理事に分析データを提供 ②予算ヒアリングシート等の提案・配信 ③予算ヒアリング等に同席し、目標値未達原因の把握と対策の共有・提案
		各種加算の算定要件のチェック	①各事業所が取得している加算算定要件の確認
		神戸地区で独自の送迎サービスの実施	①参画施設によるルート調整（継続） ②走行ルート・利用者の確定 ③送迎車両の購入 ④送迎の実施
	計画的な積立金の計上	予算ヒアリングにて目標額を計上、中間決算ヒアリングにて見込額確認	①積立目標金額 1.25 億円 A：長期修繕計画への対応 1.05 億円 （黒田建築設計事務所算出の 2022～2026 年度 5 年間の修繕費用 1 年平均額） B：新規事業建設への対応 0.2 億円 （2022～2026 年度 5 年間の新規事業の自己負担費用 1 年平均額）
ICT 等による業務の効率化、省力化	ロボット等先進福祉機器整備、AI・ICT 化の推進	各事業所のニーズ調査	①昨年度実施した介護用ロボット等先進福祉機器の整備、AI・ICT 化の調査結果に基づき情報収集及び提供 ②先進福祉機器の整備、AI・ICT 化計画の調査
		情報収集と提供	①展示会、メーカー等の情報収集と提供
		具体的な導入への提案とサポート	①補助金、助成金などの情報収集と提供 ②導入希望施設に導入に向けた提案とサポート

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022 年度計画
ICT化等による業務の効率化、省力化	記録システム機能の活用	記録システム活用推進学習会の開催	①各施設の必要に応じた web 学習会、リモート指導等に向けたフォロー ②学習会等実施内容の把握と関係施設への情報提供
		記録システム機能の実践と共有	①導入施設における実践状況の把握 ②実践事例報告会を通じた機能活用状況の共有
	各種様式等の見直し	各種届出様式の見直しを含む稟議書等電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①デスクネットネオのワークフローを施設内に構築し運用 ②出張届・旅費精算書のペーパーレス化の本格運用 ③各種届出様式を見直し、電子印鑑決裁（施設内決裁含む）を運用
		ケース記録等利用者処遇各種帳票の電子印鑑決裁の導入、ペーパーレス化	①ケース記録等の電子印鑑決裁及びペーパーレス化を全施設導入
	会議システム（準備・開催・記録）の見直し	会議資料・記録作成の効率化	①Teams 及び OneNote の更なる活用 ②施設内会議システム効率化の検討
		ペーパーレス会議の実施	① 施設内ペーパーレス会議の検討

2022 年度事業計画と推進策（地域貢献推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022 年度計画
地域におけるセーフティネットとしての取り組みの実施	災害時要援護者に対する支援体制の構築	BCP 策定 福祉避難所の体制整備	①BCP の策定 上半期に各事業所の BCP 策定リード、下半期に検証・更新を実施
		各地区、施設の災害時の体制等の整備 (もの・ひと)	①DWAT 登録へ向けて準備する 上半期 BCP 策定後、下半期の検証の中で登録準備を進める
	制度の狭間にある支援の実施	生活環境改善 (ゴミ屋敷清掃)・生活困窮者支援(フードバンク等)への取り組み	①フードドライブ活動支援の実施 上半期半ばで活動準備、下半期にかけて活動を実施、検証継続する
		法人外関係機関(ほっとかへんネット等)との連携	各ほっとかへんネット・自立支援協議会の取り組みを法人内に情報発信
	①毎月の実施状況把握(神戸地区:ほっとかへんネット・自立支援協議会等)		
	地域のニーズに応じた支援活動の実施	地域のニーズに応える体制の構築	地域ニーズの情報収集方法と支援内容の見極め
支援体制の検討と構築			①認知症カフェ・認知症サポーター研修の実施 上半期に研修実施計画 下半期に研修実施
地域住民と積極的に交流する活動の実施	地域活動への積極的参画	地域のイベント等への参加	①地域イベントへの参加再開へ協力
	地域との交流機会の提供	地域向けイベント等の実施	①グラウンドゴルフ・感謝祭等の再開と協力とフィードバック実施
			①おいでやすカーニバル等の再開協力とフィードバック実施

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022 年度計画
		交流スペースの地域開放	①さくらの苑を中心に地域への交流スペース開放再開に向けて準備協力 ①友が丘交流スペースの地域開放継続 下半期フードドライブ活動・認知症カフェ・サポーター研修を実施(Tunagari 火・木曜日の利用)(再掲)
	ボランティアの確保	ボランティアの積極的な受け入れと仕組みづくり	①ボランティア活動受入再開準備の具体化 上半期に社協ボラセンや神戸常盤大学と連携して情報収集実施 下半期にボランティア受入再開マニュアル(ひな型)を策定する
高齢者・障害者への理解促進に向けた取り組みの実施	福祉教育、福祉体験等を通じた理解の促進	福祉体験学習等の継続を積極的に推進	①福祉体験学習の再開情報を共有し、今後の動きにフィードバックする
	広報の充実・活用	HP、SNS等を活用した情報発信	①更新担当者のスキルアップ継続 ②更新内容を明確化各部会とも共同してHPの改良・更新を進める ③HPリニューアルの検討継続

2022 年度事業計画と推進策（人事・労務・危機管理推進部担当）

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022 年度計画	
多様な働き方と適切な処遇制度の整備	(正規) キャリアアップ推進	正規職員の就業体系再整備	① 2023 年度組織体制へのキャリアラダー	
		賃金改善・給与体系再構築	① 人事制度再検討 ② 課長の管理監督地位と手当の整理	
		人事考課制度の拡充	① 昇給への反映方法確立 ② 人事考課業務のクラウド化	
	〔「準正規」〕 限定正社員等の多様な雇用形態の導入	新型正規の就業体系構築	① 地域限定正規制度創設	
		給与体系構築	① 限定正規給与規程整備	
		限定正社員制度の運用	① 2023 年度運用開始へ	
	「非正規」職員の活用	時給単価の再構成	① 職員賃金単価表改訂	
	WLB 推進による就業満足度の向上と定着の推進	働き方改革の更なる推進	有給休暇取得の推進	① 2022 年度平均有給取得率 70%
			時間外労働時間の実態管理と改善支援	① データ活用による月 45 時間超労働者ゼロ
			WLB の更なる推進	① 「表彰企業」認証への取組み（取組みテーマの設定と施設の選択）
生産性向上への取組① （支援現場業務改善への取組）			① 事例集の活用と取組み事業所の増加	
生産性向上への取組② （ペーパーレスの推進）			① モデル事業所による取組 ② 主要会議のペーパーレス化	
職員就業満足度の把握		第 2 回職員意識調査の実施	① 調査実施と分析と共有 ② 課題の発見と対策の協議	
働きやすい職場環境改善とアピール(ユースエール・くるみん・えるぼし認定)		女性の活躍推進に関する取組の実施	① 一般事業主行動計画の更新 ② 女性管理職比率基準 41.5%への検討 ③ 「女性の活躍推進企業データベース」への登録（公表）	
		次世代育成支援に関する取組の実施	① 一般事業主行動計画の更新 ② 男性育児休業 10%への取組み	
		若者雇用促進法に基づく若者の採用・育成取組み実施	① ユースエール認定基準の教育訓練計画へ対応	

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
経営者育成	管理者育成	施設長コースの設定・運用	① 候補者選抜と育成
	法人経営者選抜育成	経営諮問委員会制度の活用	① 経営諮問委員会の活用
		経営者コースの運用	① 推進部の協働強化と2023年体制（構造）の検討
経営リスクへの対応	人手不足解消	「人事部」の創設	① 推進部一体協議（職員育成推進部との連携）による働き甲斐向上
	コンプライアンス意識の強化	不良事態対応体制強化	① ハラスメント防止研修会開催
		内部統制チェックの実施	① 監事監査との並行で内部統制チェックを実施
	危機対応を体系化する取り組み	新型コロナ対策の強化	① 対策本部と協働してBCP策定
法人BCP策定		① 地域貢献推進部のBCP策定取り組みと連携	

### 3. 新型コロナウイルス感染症対策

長期間に及ぶ感染予防対策のすき間を狙った第6波のオミクロン型の感染拡大により、数施設においてクラスターを発生させたことは、対策本部の反省です。今一度、気を引き締めて、以下のとおり感染拡大の予防に取り組みます。

- (1) 施設における感染防護活動の徹底
  - ① 対策本部によるクラスター経験値のとりまとめ
  - ② 経験値を踏まえた感染防護行動の周知
  - ③ 感染侵入時の拡大防止のための取り組み方の確認と周知
  - ④ 基本的防護活動（検温・手洗い・防護具着用等）の徹底要請
  
- (2) 社会機能維持のための安全なサービスの提供体制の確保
  - ① 防護具の確保のとりまとめ
  - ② 業務への従事を必要とする濃厚接触者（無症状）等に対して行う抗原定性検査キット（薬事承認済み）の確保を施設長に要請（令和4年1月25日付国基本的対処方針関係）
  - ③ クラスター時職員応援の指示体制整備
  
- (3) 職員個々における感染防護活動の徹底に向けた協力要請
  - ① 感染を持ち込まないための自粛的行動のお願いの継続
  - ② 感染拡大地域への旅行等計画時の相談要請
  - ③ 濃厚接触状況等の情報提供要請
  
- (4) 職員の安心の確保
  - ① 施設の判断で休業させることのできる休業補償制度
  - ② 小学校休業等対応助成金を活用した休業補償
  - ③ クラスター対応の危険手当支給
  - ④ クラスター対応時の宿所の確保
  
- (5) 対策本部の起動力向上
  - ① 国事務連絡・兵庫県・神戸市通知・老施協情報等の確認精通
  - ② 対策本部会議（感染拡大期に毎週）開催
  - ③ 施設状況に応じた知見支援並びに状況確認



## 2022年度 事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
成年後見制度活用推進委員会

今年度は従来の全体の委員会で引き続き指導者から学びながら、神戸と但馬のユニットでそれぞれが最も必要と考える制度活用を進めるため、地区別の課題を意識した独自の歩み方もお願いすることにします。

これによって近未来の法人を担う管理職として法人ワイドで連携しながら、同時に、ご利用者への思い、地域社会への思いをいっそう深く追求していってもらえると信じています。

### 1. 成年後見制度活用推進委員会 2022年度事業計画案（神戸地区）

2021年度は、①研修による職員・家族への制度理解の推進、②家族や利用者への定期的な広報活動（みまもり通信）、③法人内での制度利用の状況確認や今後についての課題検討、などについて継続的に取り組んできましたが、新たな取り組みとして、講師を迎えての実践的な事例検討や制度のさらなる理解を深めるための勉強会にも取り組みました。その中では、既存の制度活用を進めるだけでなく、利用者と家族が安心できる成年後見制度の在り方として「法人後見」という形を考えてきました。

2022年度の事業方針として、

- ①育成の視点：推進委員（事業所の課長）が自前で成年後見制度の研修や勉強会の実施を行えるようになることを目指す。具体的には、高橋先生の勉強会を引き続き取り組み、実践的な事例検討と制度の勉強会を実施。法人オリジナルの研修資料・教材の作成につなげる。
- ②啓発の視点：みまもり通信を中心として、家族や利用者へ制度理解や相談窓口としての機能強化。紙媒体だけでなく、ホームページなどの活用を検討していく。
- ③推進の視点：「法人後見」について、高橋先生の勉強会から知見を深め、神戸聖隷として、どのような形で提案できるかについて検討していく。

### 2. 成年後見制度活用推進委員会 2022年度事業計画案（但馬地区）

但馬地区では、①高齢者施設と障害者施設、入所施設と通所施設等々の違いで、それぞれに関わるケースが異なり、利用者がおかれている環境も異なる為、ご家族や職員の関心や経験に差が生じている。②自分達自身がまだ成年後見制度について、他の職員に十分に伝える事ができるような段階に至っていないのではないか。③法人後見を考えていく中で、すべき事や課題が出てく事が考えられる。それ踏まえた上で、勉強を継続して行い、委員会として法人後見に対する考え（必要性や取り組みが実施可能なのか等）を示す事が求められてくるのではないかと、という課題を感じています。

2022年度の事業方針として、

- ① 育成の視点：高橋先生の勉強会を引き続き取り組み、実践的な事例検討と制度の勉強会を実施。また各事業所での関った事例を用いての事例勉強会に繋げていく。
- ② 啓発の視点：神戸地区のご意見と同様

みまもり通信を中心として、家族や利用者へ制度理解や相談窓口としての機能強化。紙媒体だけでなく、ホームページなどの活用を検討していく。

- ② 推進の視点：「法人後見」について、高橋先生の勉強会から知見を深め、成年後見制度活用推進委員会としての法人後見に対する考えや価値観を明確にする。これまでの成年後見制度を推進していくにあたり協力頂いてきた、但馬地区、神戸地区、及び推進委員会メンバー個人と繋がりを持つ方々や社会資源をエコマップにし、推進委員会として共有、活動を継続させる財産として活用をさせる。

## 2022年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸聖隷歴史資料館  
管理者 吉田 和夫

### 神戸聖隷歴史資料館の基本方針

1. 収集・整理・保存を通して、創始の思いを学び、そして後世に伝えます。
2. 調査研究を通して法人の特色を発信します。
3. 歴史資料の展示を職員研修に積極的に活用して、職員のモチベーションを高めます。
4. 社会福祉事業の不透明な将来に向けた逞しい展開を考える場にします。

### 第4期中期計画のビジョン

**創始の熱い思いを全職員の心に響かせ、福祉に対する市民の理解を拓げるために活動します**

#### 2022年度の事業計画について

神戸聖隷歴史資料館の2022年度事業計画は、地域社会との連携、広報活動の充実に力を入れるとともに、資料の収集・保管・展示を進めて参ります。

理念の視点では、資料の収集・保管・展示に関して、昨年度旧さくらの苑から歴史資料館に移動した本部書類の整理を行い、適切な保存管理を進めます。ギャラリーの利用促進については、昨年度新型コロナウイルス感染症の影響がある中、徐々に広報活動を再開して参りました。2022年度はより多くの方々に作品展示をして頂き、歴史資料館の認知度向上に繋がります。施設利用者の作品展も同様に開催し、今後も継続して利用者の活動を発信していきます。また、ホームページやFacebook、Instagram等インターネットを活用し、歴史資料館だけでなく但馬地区の情報を発信します。映像コーナーでは、新たに施設紹介の映像又は写真のスライドショーや、理念理解定着部会にて作成中の新しいDVDを追加し、法人各施設を紹介できるよう取り組んで参ります。

人材育成の視点では、歴史勉強会・職員研修等にて法人の歴史に関する学習機会を提供します。

地域貢献の視点では、竹田中町区の「指定緊急避難場所」として、中町区との関係性を引き続き強化し、地域の防災に協力できるよう努めていきます。また、集会・イベント会場としての場所開放等、地域住民の皆様が気軽に足を運ぶことのできる機会を提供致します。但馬よろず福祉相談所については、成年後見制度活用推進委員会との連携体制を強化し、地域的に意味ある相談窓口にしていきます。

#### 1. 事業概要

開設年月日：2016年11月23日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
広報活動の充実 歴史資料館の	あったかプラザとの連携	① 両事業所にパンフレットの設置、展示案内を掲示 ② 両事業所の担当者が情報を共有 ③ 出展者に互いの施設を紹介し、両施設で展示を実施
	ギャラリーの利用促進	① 地域住民・関係者への広報活動 ② 施設利用者の作品展を開催し、施設利用者の活動を発信
	インターネットを活用した広報活動	① ホームページにて最新情報を発信 ② Facebook や Instagram を通して情報を発信
資料の収集・ 保管・展示	映像コーナーに新しい映像を追加	① 施設紹介の映像又は写真のスライドショーを追加 ② 理念理解定着部会作成のDVDを追加
	工事関係書類・広報誌の管理	① 工事関係書類（契約書等）、広報誌を適切に保存管理する

### (2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
学習機会の提供	法人の歴史勉強会等の開催	① 歴史勉強会・職員研修の開催の場を提供

### (3) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
地域社会との連携	地域防災への協力	① 竹田中町区の「指定緊急避難場所」として地域防災に協力
	「但馬よろず福祉相談所」の利用促進	① 相談体制（事業所間連携・相談バックアップ等）の構築 ② 成年後見制度活用推進委員会との連携
	場所の開放	① 地域住民の皆様の集会・イベント等会場として場所を開放

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 平生園  
施設長 太田 敦子

### 平生園の基本方針

1. 利用者様が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（生きる）施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者とその方を取り巻く皆のしあわせを追究いたします。

### 2022 年度の事業計画について

昨年平生園は大規模改修工事を実施。更に兵庫県の補助金を受け Wi-fi 環境の整備や離床センサーベッド等の導入と記録システムとの連携等 ICT 化を図り、ご利用者、職員にとって快適で安心安全な環境を整えました。今年度は、改修工事等々により昨年度十分できなかった重点3項目を継続し、より充実した支援の提供をいたします。

QOL の視点「看取り支援の充実」は、コロナ禍により施設内への入室を控え、玄関に近い個室へ移動することで家族との時間の確保を優先しましたが、住み慣れ親しんだ関係等を繋ぐことまた、同じユニットでのサービスの継続が困難となっています。ユニットを変更せずにできる方法や移動の場合は、ユニット間の情報共有方法等の検討をいたします。また、法人内の高齢者施設が合同で研修会を実施し、参加することで支援の充実を図り、質の継続をいたします。

二つ目はリスクマネジメント（事故防止）です。事故は昨年より減少していますが引き続き気づきによる事前防止や介護技術の習得、離床センサー等を活用した支援の見直しを行い防止に努めます。虐待防止については、セルフチェックの結果を受け支援に悩んだ時などスーパーバイズが受けられ改善できる働く側の環境を整えてまいります。

三つ目はエルダー制度の再構築です。職員の離職等によりエルダーの育成は大きな課題です。外部講師派遣、書式の見直しや更新、職制者等とのコミュニケーションの強化と確実な振り返り等を丁寧に行い育成できるようにいたします。新型コロナウイルス感染症により地域との交流が数年全くできていない状況となっています。方法等を工夫し楽しみの提供に努めます。

### 1. 事業概要

開設年月日：1991 年 11 月 11 日

種 別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム(第1種)	介護老人福祉施設	60名	要介護高齢者	1991年11月11日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	空床型	要介護・要支援 高齢者	2013年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
理念勉強会の開催	理念勉強会の開催	①地の塩伝道所牧師による上半期・下半期各3回(年6回)の勉強会を開催 ②理事長による講演(1回/年)
	理念研修へ職員派遣	①キリスト教福祉基礎講座、法人理念研修等へ職員派遣(3名以上/年)

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
福祉人材の育成に努める	計画的な研修の実施と参加	①職員会議にて各学習会を開催(10回以上/年) ②外部研修参加者の年間計画作成と派遣実施 ③伝達研修の実施(職員会議)
	エルダー制度の再構築	①エルダーを育成(1名/年) ②毎月の振り返り実施 ③書式(マニュアル)の作成および更新 ④外部研修などへ職員派遣
働きやすい職場作り	ノーリフトケアの実践	①委員会および学習会の開催(4回/年) ②指導者の育成(1名/年) ③長寿の郷による人材派遣事業の活用(4回/年)
	先進福祉機器の導入検討	①先進福祉機器の情報収集 ②機器の選定、デモ機の活用(適宜導入)
	記録支援システムの有効活用	①記録支援システム活用推進者育成(各フロア1名) ②包括的自立支援プログラムの活用 ③記録時間の検討 ④記録支援システム(食事・入浴・排泄に関する)のiPad活用推進 ⑤眠りスキャンの活用

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
利用者主体の支援の充実	看取り介護の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①委員会開催（適宜）</li> <li>②看取り開始時のカンファレンス実施</li> <li>③学習会の開催（4月・10月）</li> <li>④研修会へ職員派遣もしくは講師依頼</li> <li>⑤デスカンファレンスの実施</li> <li>⑥看取り介護の方法等の再検討</li> </ul>
	個々のニーズに着目したアセスメントと充実した支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>①再アセスメントの実施（1回/年）</li> <li>②オンリーワン支援の実施</li> <li>③担当職員によるアセスメントの実施</li> </ul>
サービスの質の向上	マニュアル（手順書）の更新及び共有と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マニュアルの更新（1回/年）および適宜作成</li> <li>②各種マニュアルの整理、管理方法の検討</li> <li>③各委員会、各種担当業務の手順書作成</li> </ul>
	接遇の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>①委員会の開催（4回/年）</li> <li>②接遇ハンドブックの活用（1回/月 職員会議にて輪読）</li> <li>③月間標語作成</li> <li>④研修会へ職員派遣および学習会の開催</li> </ul>
	リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>①事故対応マニュアルの作成</li> <li>②事故・ヒヤリハットの検証と情報共有</li> <li>③研修会への職員派遣および学習会の開催（学習会 2回以上/年）</li> <li>④介護技術講習へ職員派遣および学習会の実施</li> <li>⑤介護方法の見直し</li> <li>⑥虐待不適切ケア・身体拘束の検証と共有</li> <li>⑦QOL推進部会による施設巡回および勉強会への参加依頼</li> </ul>
	サービスの評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>①サービス向上委員会立ち上げ</li> <li>②サービス評価の共有および改善案の検討、実施</li> </ul>

## (4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
繕計 の 実 施 的 な 修 繕	改修計画に基づいた修繕の実施	① 計画的な修繕の実施
経営力の確保	安定した収入の確保	① 空床期間の短縮および短期入所利用者の積極的受入れ ② 新たな加算の取得検討 ③ 適正介護度の確認および必要に応じ変更申請実施 ④ 市内各関係機関との連携、情報収集の実施 ⑤ 口腔ケアの実施による肺炎予防、機器を活用した見守りによる事故の減少、早期受診対応による入院者の減少
	加算要件の確認	① 加算要件の確認 (1回/月)
	経費削減	① 職員会議での報告、経費削減の意識づけと実践 ② 物品の在庫管理 ③ 修繕費の取捨選択 ④ 環境整備の実施 (1回/月)

## (5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
サポ ー ト 在 宅 介 護 者 の	地域ニーズへの協力	① せいいい介護者の集いへ職員派遣 (6回/年)
	認知症サポーターの養成	① キャラバンメイト1名(講師)の育成と講師派遣
地域への情報発信	ホームページ・フェイスブックの活用と機関紙発行	① ホームページの更新 ② フェイスブックの更新 (4回/年) ③ 機関紙の発行 (2回/年)
入 積 極 的 な ボ ラ ン テ ィ ア の 受 入	新規ボランティアの開拓と定着	① ボランティアの情報収集 ② 新規ボランティア開拓 ③ ボランティア受け入れと継続依頼 (WEBを活用)



(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
ワークライフバランスの推進	有給休暇 5 日以上の取得	① 有休取得年間計画表作成 ② 有給休暇取得状況を職制会にて確認（毎月）・勤務表反映
	ノー残業の推進	① 残業時間の確認 ② 退勤時間乖離者への啓発と業務改善
強化 危機管理の	災害及び防犯訓練の実施	① 避難訓練実施（2 回/年） ② 防犯訓練実施（1 回/年） ③ BCP 作成（感染症・災害）

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 わらしべ  
施設長 太田 敦子

### わらしべの基本方針

1. 常に利用者に寄り添い、心の安心を提供します。
2. 私たちは、利用者が安心した日常生活を送ることができるよう、支援を行います。
3. 私たちは、利用者に役割を持っていただき、家庭的な環境の下で生活を送っていただける様に支援を行います。
4. 私たちは、利用者の身体拘束及び、行動の制限に繋がる行為(言動)は行いません。
5. 私たちは、個人情報に関する守秘義務を遵守します。利用者様が安全で安心できる介護を提供いたします。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 安心、笑顔、自由、その人らしい暮らしの実現

#### 2022 年度の事業計画について

わらしべのビジョンである「安心、笑顔、自由、その人らしい暮らしの実現」に向け、今年度も特に3つの視点を重点的に取組みます。

QOLの視点から「看取り・重度化の対応」は、看取り支援体制の構築として、昨年度地域医療との連携にて1名の看取りをいたしました。医療体制が整うことがご利用者、ご家族、そして職員にとっていかに安心に繋がるかを体感しました。この貴重な経験をマニュアル等にも活かし作成、更新していきます。また高齢施設との共同による研修なども行い、知識と技術を習得しご利用者、ご家族に寄り添い安心できる看取り支援体制の構築に取り組めます。「個別支援の充実」については、ユニットごとや両ユニット協働での取り組みとして活動メニューの選択肢を増やし日々の支援に反映させていきます。個別支援は、コミュニケーションとアセスメントを大切に「利用者と共に」を意識したケアプランを作成し実践いたします。コロナ禍にて地域との交流が難しい中ではありますが、方法等を工夫し安心した楽しみの提供ができるよう努めます。人材確保・育成の視点の「人材育成」は、新人職員が働き続けられる環境づくりを整え、昨年作成した育成プログラムを活用し、毎月の進捗確認やフォローを丁寧に行い不安なく業務遂行ができるようにします。また指導的立場であるエルダーの育成についても、自らの指導、助言を振り返る機会を設ける事で、新人職員と共に成長できるよう職制者が支えてまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：2004年4月1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
認知症対応型老人共同生活 援助事業 (第2種)	認知症共同生活介護	18名	認知症要介護・ 要支援高齢者	2004年4月1日
老人短期入所事業(第2種)	短期利用認知症対応型 共同生活介護	空床型	認知症要介護・ 要支援高齢者	2012年11月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念の理解と浸透	法人理念の理解と共有	①職員会議時の牧師によるメッセージの実施（1回/月） ②ハンドブックを活用した理念の理解（偶数月） ③理事長による講話
	キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉基礎研修への参加 ②法人理念研修への参加

### (2) 人材確保・育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
内部・外部研修参加による専門性の向上	内部・外部研修の情報収集と計画的な研修参加	①専門の基礎研修等への参加（長寿の郷等：5回以上/年） ②認知症介護実践者研修・認知症介護実践リーダー研修への参加（各1名）
	伝達研修の充実	①内部研修会の開催 ②職員会議での伝達研修の実施
人材確保	人材確保・育成	①人材育成プログラムを活用した育成と、書式等見直し ②エルダー職員を育成するためのシステム検討

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
個別支援の充実	カンファレンス	①カンファレンスの実施（一人1回以上/年）
	各ユニットでの取組み 両ユニット協働による支援の実践	①年間計画の立案と実践 ②活動メニューの選択肢を増やし、個々のニーズの聞き取りとプランへの反映、実践 ③個別支援の実施
暮らしの安心・安全の実現	防災・防犯への取組み	①毎月避難訓練の実施 ②避難確保計画の更新（5月） ③防犯訓練の実施（1回/年）

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
	事故防止強化	① 委員会の開催 ② 事故発生時の早期カンファレンス実施 ③ 各マニュアルの更新
	虐待不適切ケアへの取組み	① 年 2 回の身体拘束廃止研修会の開催（7 月・11 月） ② 年 3 回の委員会開催（5 月・9 月・1 月）と記録の共有 ③ 接遇ハンドブックを活用し接遇力向上（奇数月）
看取り・重度化への対応	看取り支援体制の構築	① 委員会の開催（6 回/年） ② 勉強会の実施（毎月/職員会議にて） ③ 地域医師への講師依頼 ④ 外部研修受講 ⑤ 看取り開始時のカンファレンスの実施 ⑥ デスカンファレンスの実施

#### (4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安定した経営	関係機関との連携による収入確保	① 入所申し込みの再調査（5 月） ② 関係機関及び家族との連携強化 ③ 空床時ショートステイの積極的な受入れ
	収支の理解	① 経費削減の周知と実践

#### (5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域との繋がりの強化	地域交流の充実	① こども園、小学校等との交流 ② 地域ボランティアの受入 ③ ホームページ、フェイスブックの更新と機関紙発行 ④ 地域貢献部会への協力依頼（情報発信等）
	地域活動への参加	① キャラバンメイト活動への参加 ② 地域行事への参加

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2022 年度計画
い 職 場  ン ア ッ プ と 働 き や す し ョ	働き方改革の 理解	①生産性向上のための事業計画進捗のチェック ②残業減への取組み
	有給休暇の取 得促進	①計画的な取得の促進
学 ぶ  の 視 点 を	コンプライア ンスの浸透	①服務規程(規則集)を学ぶ機会の提供

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 さくらの苑  
施設長 小山 哲也

### さくらの苑の基本方針

1. 利用者が安全で安心できる介護を提供いたします。
2. 利用者様を人生の先輩として尊敬する心をもって介護いたします。
3. 利用者様にやすらぎのある生活の場を提供いたします。
4. 地域と共に歩み、地域に生きる（活きる）施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

垣根のない施設としてさくらの苑は、地域に寄り添い共に歩める施設を目指します！

### 2022 年度の事業計画について

さくらの苑 2022 年度第4期中期計画では、ご利用者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるように計画を進め、最終年度では3つの視点を重点的にご利用者の安心・安全に生活できるように取り組みます。

人材確保育成の視点では、毎年高卒新人職員が入職している現状を踏まえ、法人で活躍できる福祉職員として育成ができるよう基本介護技術や知識習得のための研修実施、チェックシートを活用した指導を実施いたします。

QOLの視点では、支援の統一と情報共有ができるツールとして24時間シートの活用とカンファレンスを実施し、ご利用者に安心・安全な支援を提供できるように取り組みます。

経営強化の視点では、インカムの導入を計画し職員間の連絡や情報共有、業務効率化を図りご利用者支援の充実に取り組みます。

昨年コロナ禍で実施できなかった出前講座やさくらカフェなど状況を見ながら開催に向け取り組み地域の皆様とのつながりを維持できるよう取り組みます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2017年5月1日

種 別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
特別養護老人ホーム（第1種）	地域密着型介護老人福祉施設	29名	要介護高齢者	2017年5月1日
老人短期入所事業（第2種）	短期入所生活介護	10名	要介護・要支援 高齢者	2017年5月1日
老人デイサービスセンター（第2種）	地域密着型通所介護	18名	要介護・要支援 高齢者	2017年5月1日
公益事業	居宅介護支援	—	要介護・要支援 高齢者	2017年5月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念の理解	基本理念ハンドブック使用	①神戸聖隷ハンドブックを活用した勉強会の実施（3回/年）
	理念研修を実施	①理事長による講話（1回/年） ②牧師によるキリスト教福祉のメッセージ聴講（1回/月） ③理念研修会の実施（1回/年） ④新任職員を対象とした神戸聖隷歴史資料館の見学
	キリスト教福祉基礎研修に参加	①キリスト教福祉基礎研修参加（2人以上/年）
基本理念に沿った実践の支援	理念に沿った学習会の開催	①ターミナルケア事例による学習会の開催 (看取り開始後のカンファレンス、デスカンファレンスの開催)

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
人材育成のための仕組み作り	業務改善に向けた取り組み教育システムの見直し	①高卒新人職員に特化したプログラムの整備
	役割を担う職員の仕組み作り	①年間研修計画の作成(1人1回以上研修参加) ②専門研修プログラムの作成 ③認知症基礎研修受講の計画・実施（対象職員）
	資格取得への取り組み	①資格取得のサポート体制の強化
働きやすい職場環境を考える	職場環境改善への取り組み	①ほのぼのとインカムを活用した情報共有と業務効率化 ②福祉機器の活用による負担軽減
	記録方法を学ぶ	①ケア記録の書き方を学ぶための研修参加、勉強会の開催

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
	他施設見学 職員満足度調査	①他施設の勤務時間や業務分担の情報収集 ②満足度調査の実施（1回/年）

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
個別支援を深める	ユニットケアの理解と実践	①ユニットケア研修参加・勉強会の開催（1回/年） ②さくらの苑「的」ユニットケアの検討・実施
	24時間シートの活用	①24時間シートの勉強会開催（1回/年）
	個別支援の理解	①ケースカンファレンスの実施（1回/月）
	ご利用者満足度調査の実施	①調査実施と集計、報告（1回/年）
地域に開かれた施設を目指す	垣根のない施設への取り組み	①イベントの検討・実施（1回/年） （めぐみと共同行事等検討・実施）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
各事業の特性を活かした利用者の確保	利用者の確保	①見学ツアーの開催（1回/年） ②体験利用の受け入れ実施
	先進福祉機器導入の検討	①インカムシステムの導入（12月導入）
将来の設備投資のため積立金の確保	目標に沿った積立金の確保	①最終補正予算での積立金計上の模索
	経費の削減	①電子印鑑導入による可能な書類のペーパーレス保存の実施 ②光熱水費の削減の啓発



(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域を知り地域貢献を学ぶ	地域貢献を学ぶ	①地域福祉関連の研修参加（2回/年） ②職員会議での勉強会開催（1回/年） ③新人職員に地域貢献への取り組みを伝える（1回/年）
	必要な資源を知り、地域へ展開する	①マップ作成、マップから地域への理解を深める ②地域資源の情報収集を実施しマップに反映
地域とのつながりを強め、ニーズ把握を実施	地域サポート施設への参入から展開	①さくらカフェ開催（2回/年） ②出前講座開催（2回/年） ③地域包括と社協との意見交換会実施（2回/年） ④家族会や運営推進会議にて説明（2回/年） ⑤地域サポート施設事業の広報活動（1回/年）
	ニーズ把握方法、つながり強化のための取り組みの検討・実施	①ニーズ把握方法についての研修参加（2回/年） ②さくらカフェ・出前講座・ミニデイ・いきいき百歳体操へ参加し地域とのつながり強化に努める ③さくら新聞の定期発行・配布（3回/年） ④カフェ・講座開催時にアンケート調査実施（2回/年）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
苦情、事故予防体制の基本的な考え方	虐待・不適切ケアへの取り組み	①虐待・不適切ケア防止の研修参加（1回/年） ②職員会議での勉強会開催（1回/年） ③虐待・不適切ケア防止の啓発活動（1回/月）
	事故予防への取り組み	①苦情・事故予防の考え方を学ぶ研修参加（1回/年） ②事故・ヒヤリハットの勉強会開催（1回/年） ③事故後の検証実施
働き方改革への取り組み	有給休暇の取得促進	①年次有給休暇の効率的な取得方法の検討・実施
	残業時間の短縮	①退勤時間乖離者への啓発

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 恵生園  
施設長 掃部久美代

### 恵生園、グループホームめぐみの基本方針

1. 私たちは ご利用者の人権を尊重し自ら選んで決めていただけるサービスを提供します。
2. 私たちは ご利用者が生き生きと喜びをもって生活できる施設を目指します。
3. 私たちは 自ら率先して話し合える職場づくりに努めます。
4. 私たちは まちの声に応え 地域に貢献できる施設を目指します。

### 放課後等デイサービスめぐみの基本方針

1. こども達一人ひとりの個性を大切に、豊かな育ちを支えます。
2. こどもと保護者に寄り添い、成長を喜び合うことができる施設を目指します。
3. こども達の未来のために、地域に愛される施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者の思いを聴き、利用者中心の支援のもと障害特性に応じたサービスを提供します。  
わたしたちは、気づき考え行動します。

### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画の最終年を迎え、昨年度から開始しました新規事業、放課後等デイサービス、グループホームめぐみの運営と共に恵生園は、子どもから高齢者まで障害特性に応じたサービスを提供することを目標にしています。

個々の利用者の思いをしっかりと、お聴きし、ニーズに応じた支援をどのように提供するか考えていかなければなりません。入所の高齢化や重度化については、進んでおり、昨年度から始めた訪問歯科での口腔ケアを今年度も引き続き学び、また、医療との連携をとりながら、健康管理を行います。そして、OTの指導のもとに機能訓練での機能維持にも力を入れていきます。一人ひとりのニーズや関心に合わせて支援の方針を立て、個別支援計画に基づきサービスを提供いたします。

今年度より相談支援事業所では、地域のニーズに応えるためにも相談支援体制の充実を図り、新たに障害児相談支援事業を開設いたします。特定相談支援事業と障害児相談支援事業を一体的に運営し、切れ目のない相談支援体制の整備を行います。そして、利用ニーズに即したサービス利用へつなげる事の出来る相談を行ないます。

放課後等デイサービスとグループホームめぐみは2年目となります。安定した経営を求めるために専門性の向上に加え、資質の向上を目指します。支援の質を高めるために、適切な支援方法に関する理解を深め、各々の支援に求められる専門性について、実践研修を含めた研修機会を増やし、全体のスキルアップを図ります。

## 1. 事業概要

開設年月日：1976年 6月 1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設 (第1種)	施設入所支援	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	短期入所	3名	身体・知的障害者	2006年10月1日
相談支援事業 (第2種)	特定相談支援	—	障害者	2013年3月1日
	障害児相談支援		障害児	2022年4月1日
公益事業	介護予防等拠点事業 (あったかプラザ)	—	—	2003年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	6名	身体・知的障害者	2021年4月1日
障害児通所事業 (第2種)	放課後等デイサービス	10名	障害児	2021年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
支援 理念に基づいた	キリスト教福祉の理解	①牧師によるキリスト教勉強会(月2回) ②理念学習会(全職員 年1回以上の参加) ③神戸聖隷歴史資料館の見学 ④神戸聖隷ハンドブックの輪読と理念学習会への反映

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
術の向上 必要とされる知識・技	資質の向上	①階層、意欲に応じた研修参加と資格取得奨励 ②伝達研修実施 ③内部研修(毎月職員講師による) ④身体拘束検証会議(年度初め確認、毎月) ⑤虐待・不適切ケア施設事例学習会(前期・後期) ⑥虐待防止研修 ⑦記録ソフト活用
職場環境 い風通しの良 つくり	誰もが発言できる職場づくり	①支援ミーティング(毎週) ②セルフチェック結果への取り組み ③業務改善会議(年2回) ④接遇ハンドブック輪読(隔月)
サービスの提供 安心安全な	危機予測力の向上	①事故・リスク検証会議(毎月) ②BCP計画に基づく研修・訓練の実施(防災・防犯・感染症) ③感染症用居室・備品管理 ④災害・防災マニュアル更新

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
高齢化重度化への対応	身体機能低下への取り組み	①施設の取り組み情報家族配信(年3回) ②歯科往診による口腔ケア・支援の向上 ③介護支援技術の習得(研修参加) ④医療情報提供書家族確認・更新 ⑤日課(入浴・日中活動)の時間帯の見直し ⑥OT指導のリハビリ支援
	ニーズへの対応	①利用者の障害に応じた日中活動の個別化と見直し ②各種マニュアルの見直し・更新 ③年間行事(イベント・テイクアウト) ④満足度調査結果の開示と改善の取り組み
	居住環境の向上	①環境整備(食堂テーブル、椅子) ②身体状況に応じた居室の環境整備
(放課後等デイ)療育、日中活動の充実	日常生活の向上	①創作活動などの余暇支援活動 ②身辺自立を促すための支援 ③コミュニケーション力の向上のための支援 ④ソーシャルスキルの獲得のための支援 ⑤イベント等を通じた外部への広報活動
	施設外活動の充実	①高齢障害施設との交流 ②地域行事への参加 ③利用外児童へのサービス提供 ④イベント等を通じた外部への広報活動
(放課後等デイ)取り組み 保護者支援の	満足度アップ	①満足度調査実施とHPへの公表 ②保護者へのお便り発行(SNS含む) ③安全な支援・送迎の実施(研修参加) ④リスク対応マニュアル作成 ⑤日誌・申し送り業務の見直し
プホーム)支援体制の構築(グループ)	マニュアルの整備	①世話人・生活支援業務のマニュアル作成 ②日誌・申し送り業務の見直し ③リスク対応マニュアル作成

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
確保 安定した経営の	安定した経営	①物品庫管理・消耗品の見直し ②加算基準を満たした運営(相談支援事業各種加算) ③採用職員の外部・内部研修参加 ④障害児相談支援事業開始による新規利用者確保 ⑤めぐみ利用率の向上

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
対応 地域ニーズへの	地域ニーズの抽出	①アンケートの実施と対策 ②地域交流・介護予防拠点としての運用 ③地域の一員として行事や自治会活動に参加 ④パンフレットの見直し ⑤障害児相談支援事業の開始・広報活動

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
法令遵守	資質向上	①コンプライアンス学習会 ②キャリアパス学習会 ③リスクマネジメント研修
の推進 ワーク バランス	労務管理の徹底	①有給休暇の取得率を上げる ②残業を減らす

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 真生園  
施設長 大橋 幸司

### 真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を添え、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しさで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

**どんな時も最善を尽くし、その人に寄り添い支えます**

#### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画の最終の3年目に入ります。新型コロナの発生前のように、施設活動も大きく回復しており、2022年度は、より積極的で行動的な、ご利用者の笑顔あふれる生活支援を目指すことを基本に、計画を策定しています。

ご利用者の感染対策として、前年度と変わらない感染防止対策を実施しながら、できるだけ活動的な日常生活が出来るように、ご利用者・職員の皆が3回目のワクチン接種を実施し、外出制限の中であっても、充実した買い物ができるように、衣料品・食品等の出前店舗を活用した、ハイブリッド的な生活環境の提供ができるよう取り組みます。

QOLの向上を目指し、日中活動のさらなる取り組みや、利用者主体の支援を基本とした、生活支援の充実、また、職員の介護技術の向上や資格取得を推奨し、職員の生活支援や気づきの向上を図り、細かなニーズへ職員が積極的に対応できるようにします。

設備面では、天井走行リフトの更新工事3年目を迎えます。南寮等の天井走行リフト更新工事が終われば、施設内すべてのリフト更新工事が終了となります。今後も、ご利用者の安心安全な移乗支援が継続できるよう、できるだけ抱えない移乗支援（ノーリフティング）を目指します。

その他として、積極的に基本理念・キリスト教福祉の浸透を継続的に実施することや、事故・ヒヤリハットを詳細に分析し、具体的な対策・歯止めをすることで、事故防止に努めます。

最後に、人材確保を積極的に実施します。ハローワークからの人材紹介が少ないため、人材紹介会社等を活用することで、より良い人材確保を目指します。

## 1. 事業概要

開設年月日：1978年5月10日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設(第1種)	施設入所支援	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	短期入所	4名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	日中一時支援	5名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	真生園診療所	—	—	1979年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念の周知	基本理念の理解	①牧師による朝礼メッセージ実施 ②理事長の講演を通して、歴史を学ぶ
	キリスト教福祉の理解	①キリスト教勉強会を職員会議等にて実施 ②理念研修への参加
	神戸聖隷ハンドブックの活用	①キリスト教福祉講座への参加 ②職員会議にて神戸聖隷ハンドブックの唱和

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
ICT・介護機器による更なる職場環境改善	更なる介護機器の導入と更新	①使用中の介護機器の検証と利便性の向上 ②最新の福祉用具・最新介護機器の情報収集 ③最新介護機器の導入の検討
	ICTによる働き方改革と生産性の向上の取り組み	①法人・施設情報を職員全体に発信できる情報共有システムの活用を検討 ②現場から課題、意見を聴取し、効率化が図れるシステム作り
指す 人材育成と個々のスキルアップを目指す	個々のスキル向上を目指す	①職員個々の経験に応じた研修への参加と伝達研修の実施 ②Web研修の定着化(マニュアル化) ③OJTマニュアルの見直しと整備
	継続した専門研修への参加	①喀痰研修・サービス管理責任者研修等の専門研修へ参加 ②長寿の郷の介護専門研修等へ参加

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
オンラインワンサービスの充実	利用者ひとり一人へ寄り添う支援の確立	①利用者の基礎情報の更新を通じて、利用者理解を深める ②利用者（家族）へアセスメントを実施し、思いを汲み取った具体的で実施可能な個別支援計画の作成とサービス提供 ③身体拘束廃止委員会を定期的実施し、身体拘束解除に向け取り組む（3か月/毎） ④真生園の長所の模索と追求
	利用者ニーズに沿った施設作り	①運営会議にて、より良い施設運営や施設業務を改善する為に、利用者代表と協議を実施 ②懇談会や“何でも相談”を通じて、各利用者から要望等の意見を聴取
魅力ある日中活動の改革	魅力あるプログラムの提供	①コロナ禍であっても利用者の笑顔あふれる活動の提供
	レクリエーション機器の活用	①障害特性に合わせてレク機器を活用し、情緒の安定を図る
向上の質・技術の支援サービスの	他施設を見学し、最新の支援技術や支援システムを学ぶ	①他施設と情報交換を行い、導入可能な取り組みがあれば導入し、利用者支援や業務の改善に活かす

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
安定した収入の確保	利用者の確保	①行政・相談支援事業所等へ利用状況を提供し、待機者の情報を収集 ②行政・相談支援事業所、特別支援学校等へ情報収集し、地域のニーズの把握と分析
	職員の確保	①人材状況を随時把握し、ハローワークにて求人を実施 ②緊急な人材不足の対策として、人材紹介業者を活用 ③健康診断結果、メンタルヘルス診断結果に基づき、職員へのフォローを実施 ④ユニフォーム更新に向けての情報収集
	経費削減と出来る限りの積立金の確保	①毎月の水道光熱費等を把握し、適時職員へ使用状況の報告と経費削減に向けた取組み方法を周知 ①介護給付費収入を確実に確保し、出来る限りの積立金を積み立てる



重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
予病 防気 の 早 期 発 見、  早 期 治 療 で 入 院	利用者の状態を適切に把握	①利用者個々の体調を把握し、重症化に至るまでに病院受診、家族への説明を確実にし、利用者・家族の負担を最小限に留める ②状態に応じて適切な社会資源を活用できるよう連絡調整を実施
	施設に感染症を持ち込まない	①感染症予防研修にて、感染症予防の基本を学び、職員個々による感染症予防対策を実施 ②感染予防対策の強化と利用者・家族・職員等への周知として、感染症予防月間の実施 ③感染症発生時の訓練の実施
設老 備朽 改化 修した	老朽化した設備の改修（天井走行リフト等）	①天井走行リフトの更新（南寮、浴室、トイレ） ②食堂・ホールの一部 LED 化 ③施設内外の老朽箇所等の修繕 ④厨房屋外のゴミステーションの更新
管の 理苑 の（旧） 維さ 持くら	（旧）さくらの苑の維持管理	①（旧）さくらの苑の室内清掃、及び防災設備の維持管理 ②新型コロナ対応隔離場所としての活用

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地 域 と 繋 が り を 作 る	竹田地域を散策し店舗等の利用	① 地域の感染症状況を把握し、竹田地域へ外出を実施
	地域へ貢献する	①移動販売の利用を行い、地域の活性化に貢献する ②竹田地域の店舗や公共施設へ施設での作成物の提供
	機関紙やホームページの積極的な活用	① 誰もが分かりやすく読みやすいスマートな機関紙作成を随時検討及び実施

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
外部・内部リスクに対して早期対応・早期解決	利用者懇談会・運営会議を実施し、利用者と情報の共有を実施	①利用者懇談会・運営会議で得た各利用者の要望やニーズなどの情報を分析し、課題改善を早期に実施 ②利用者代表や家族会と、適時話し合える機会を持ち、施設の課題改善を実施
	苦情解決委員会・虐待防止委員会を実施し早期解決	①苦情解決・虐待防止に関する受付者及び第三者委員等の関わりを周知し、苦情解決や虐待防止に向けてより開かれた環境で取り組みを進める ②定期的に研修を実施し、虐待防止意識の向上及び適切な身体拘束に関わる知識の習得 ・虐待防止、身体拘束廃止委員会の開催（3 か月/毎） ・身体拘束廃止、改善の為の研修の実施（2 回/年） ・虐待防止研修の実施（2 回/年）
	介護事故対策の実施・事故発生時の対応マニュアルの作成	①火災・災害合同避難訓練の実施（2 回/年） ②事故防止（リスクマネジメント）研修の実施（1 回/年） ③防犯訓練の実施（1 回/年） ④BCP 研修へ参加（1 回/年） ⑤特に多い事故・ヒヤリハットを分析し、重大な事故に至るまでに防止策が確実に出来ているか委員会で毎時確認 ⑥安全運転管理記録表の作成
度の積極的な活用	成年後見制度の積極的な活用	①利用者の重度高齢化及び家族の高齢化に伴い、成年後見制度活用の必要な利用者を把握し、積極的に制度の活用を推進

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 和生園  
施設長 松本 雄二

### 和生園の基本方針

1. ご利用者一人一人の可能性と無限性を求めます。
2. 個々のニーズに応えるべく高い専門性を持ったチーム支援を実施します。
3. 地域に支えられ、地域の信頼に応え地域と共に歩みます。

### グループホームもみの木・かしの木の基本方針

1. ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、自立へ向けての個別支援を行います。
2. ご利用者が、安全・安心・快適な生活を送られるように支援します。
3. 地域との連携を重視し、地域に根ざしたホーム作りに努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

一人ひとりがストレングスを活かした自己実現と  
仕事を通じた社会とつながる施設を目指します。

### 2022 年度の事業計画について

2014年9月より7年7か月にわたり事業運営してまいりました就労移行支援事業ですが、ご利用者・ご利用希望者がなくなることから、2021年3月末日をもって廃止します。しかし就労継続支援B型事業の定員を34人から40人に増員することで、新たな就職希望者が現れた場合には本事業を利用いただき、就職への訓練スキルを持った職員の支援により、ご利用者のニーズに対応いたします。

昨年取得したさくらの苑前の農地（仮称 だいふくファーム）については、ご利用者の工賃増額への有効な手段となるよう（株）姫路生花卸売市場の助言を受けながら生花を主要な作物とし、確実な生産と販路の拡大に努めます。また、地理的には竹田地区の中心地に位置するため、地区住民の方や観光客の目にも留まりやすいことから、神戸聖隷福祉事業団の象徴的な存在となるように、ビジュアルの面にも配慮しながら適切な管理をいたします。

共同生活援助事業では、昨年下半年から始めた夜間支援体制の強化（夜間支援従事者として宿直者を配置）を今年度も継続し、夜間におけるご利用者の体調不良や災害等に対応可能な体制の維持により、ご利用者への安全で安心な生活の提供に努めます。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982年4月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	40名	身体・知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	—	身体・知的障害者	2018年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	共同生活援助	17名	身体・知的障害者	2012年4月1日

2. 第4期中期計画と推進策

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
理念の理解と実践	施設内理念研修の実施	①施設内理念研修会開催
	理念研修への参加	①職員の参加
	神戸聖隷ハンドブックの活用	①3ヶ月毎の職員会議で活用
	ご利用者への困り事への柔軟な対応	①困り事調査(9・3月)と対応
理念を地域や利用者に広報	和生園・GHの広報誌の継続と発行	①広報紙発行(12月)
	施設内へキリスト教を象徴した掲示物等の工夫	①掲示物の検討と掲示

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
十分な人材確保	職員確保の工夫	①職員確保
	様々なメディアにて求人を実施(GH世話人・夜勤者 or 宿直者を含む)	①宿直を行う夜間支援従事者の配置の継続
働き甲斐のある職場づくり	勤務時間の見直しと業務の改善について検討	①可能と判断した文書帳票のペーパーレス化 ②ペーパーレス帳票の整理
	新人・新任職員マニュアルの整備	①マニュアル(エルダー制度等)の運用と見直し

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
新型コロナ禍での有効な人材育成	専門的知識の習得 (Web 研修を活用して外部研修会への積極的な参加)	①Web での研修会参加

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
利用者主体の就労支援 (製袋を含む)	現状に合わせた作業の開拓	①働き甲斐に繋がる新規作業の開拓 ②さくらの苑横農地(だいふくファーム)を利用した作業の開始
	安定した製袋作業の定着	①年間受注数の生産と純利益増 ②製袋機が操作できる職員2名の育成
	新工賃システムの定着	①新工賃システムの振返りによる課題整理と修正
障害の多様性に対応した知識の習得	計画的な外部研修会参加と伝達研修の徹底	①職員毎の研修計画の立案と派遣、伝達研修実施
	虐待防止勉強会の開催	①勉強会の開催
支援体制の強化	(GH)夜間支援体制の向上と実施	①夜勤(宿直)業務の継続
	(GH)世話人の確保	①職員体制(世話人)、5:1の維持

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
施設独自の送迎システムの検討	ニーズに応じた送迎サービスの実施	①送迎継続
	送迎体制の整備	①送迎サービスの継続
	交通安全教育実施による安全運転意識の充実	①安全運転講習会開催（7月）と危険個所の共有
安定した収入の確保	月額平均工賃17,000 円の確保	①定期的な企業訪問による新規作業の獲得 ②製袋作業の効率化による、生産性の向上
	目標利用人数の達成	①就労継続支援 B 型事業の定員変更（34→40 名） ②利用者、家族の高齢化による利用日数減への対応 ③施設外就労から施設外支援への切替え

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
(和生園・第2和生園) 地域清掃活動の継続	地域清掃活動の継続（第2和生園）	①毎週火曜日に実施
	資源回収へ人的、物的労力での協力を継続（和生園）	①資源回収への人的、物的協力の提供（5・10・3月）
	地区行事への積極的な協力	①地区行事への協力

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域ニーズに対応した協働	秋葉台 3 区ボランティアサークルへ活動お手伝いの申出と活動への協力	①秋葉台 3 区ボランティアサークルへお手伝い
	自立支援協議会への積極的参加	①朝来市自立支援協議会への参加

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
働き方改革への取り組みの継続	無賃残業ゼロの徹底	①勤怠管理システムとセキュリティ施錠時刻の突合

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 北但広域療育センター  
施設長 久木田 憲彦

### 北但広域療育センターの基本方針

1. 利用者の人権を尊重して、利用者が全人的に生かされることを目指して支援します。
2. ICF の障害観点に立って、生活、環境をも考慮した質の高いサービスの提供を目指します。
3. 北但馬の療育の中核として、職員の専門性の向上を図り、地域（教育、医療、福祉、家庭）との連携体制の構築を図ります。
4. キリスト教精神を持って、日々、利用者と接します。

### 第4期中期計画のビジョン

専門家集団として、地域から求められる役割の明確化とサービス提供体制の確立。

### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画の最終年度となり、これまで北但広域療育センターが実施してきた地域での療育の中核をなす活動をより強固とするために、幅広い専門性に基づく発達支援・家族支援に加え、地域とのつながりを重視した事業運営を目指します。

療育の場面では、教材・研修サービスを継続して活用し質の向上を図り、児童発達支援センター「すまいる」では、豊岡市育児支援教室等を継続して実施し、発達障害児の早期発見・早期療育に努めるとともに、保育所等訪問支援事業による地域内の学校・園・事業所と連携したインクルーシブな支援を推進します。また、地域の障害児の発達支援の入り口としての障害児相談支援事業において、希望する障害児及び保護者全ての意向に添える支援が可能となるように、行政・関係機関等と協議を行います。

放課後等デイサービス「らみい」では、これまで小学校1・2年生を中心に療育を行っていましたが、中・高学年への療育の機会を増やすとともに、チャレンジ療育を継続して実施し社会体験活動の場を提供します。

重症心身障害児(者)の方が利用される「トゥモロー」においては、放課後等デイサービスの利用枠を増加してきましたが、生活介護への移行に伴い減少を余儀なくされる状況となり、今後の利用ニーズを把握したうえで、事業運営の方向性を第5期中期計画へ引き継いでいきます。

ひょうご発達障害者支援センタークローバー豊岡ブランチでは、複数の放課後等デイサービスを利用される児童への支援の在り方・情報共有の方法について各事業所と連携した支援を実施するとともに、地域への情報発信や理解を深める活動も継続して実施します。

### 1. 事業概要

開設年月日：2008年10月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業(第2種)	児童発達支援 保育所等訪問支援	20名 —	障害児	2018年4月1日



種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	8名	重症心身障害者	2008年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	放課後等デイサービス		重症心身障害児	
障害児通所支援事業 (第2種)	放課後等デイサービス	10名	障害児	2018年4月1日
相談支援事業 (第2種)	一般相談支援	—	身体障害児者	2008年10月1日
	特定相談支援	—	知的障害児者	
	障害児相談支援	—	発達障害児者	
公益事業	ひょうご発達障害者支援センターコーパ-豊岡ランチ	—	発達障害者	2009年4月1日
公益事業	風(ふう)発達クリニック	—	小児科・精神科 神経内科	2009年5月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
日々の業務の中で理念が結びつき実感できる組織づくり	理事長・牧師との相互交流による理念の浸透	① 職員会議にて理事長による講話を実施 ② 職員会議にて牧師による講話を実施 ③ コロナ禍での実施方法の検討
	法人内外への理念研修への参加	① 法人理念研修への参加 ② 職員会議での伝達研修による情報共有
	基本理念に基づく部門ごとの基本方針の策定	① 基本方針の部署会議での唱和による職員間の共有 ② 基本方針の保護者・家族への周知

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
専門職の専門性向上と職種間の情報共有強化	外部研修への積極的参加と内部研修の実施	① 年間研修計画に沿った外部研修への参加 ② 年間を通して高度人材育成プログラムの受講 ③ オンラインを活用した研修受講 ④ 計画的な内部研修の実施
	近隣施設の見学による体制強化	① 近隣施設の見学 ② 近隣施設との連携強化と情報共有

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
適正な職員配置の検証と育成システムの構築	職員の定着による後継者育成	① エルダー制度の継続実施 ② 事業ごとのチェックリストの活用
	指定管理下の職員配置基準見直し交渉	① 後継者育成を踏まえた職員の適正配置の検討 ② 必要に応じて指定管理の配置基準について協議

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
重症心身障害児者のコミュニケーション支援の充実	コミュニケーション機器についての情報収集及びそれら先進機器の導入と活用	① 現行機器の有効活用の検討 ② 機器導入に関する助成事業のリサーチ ③ 先進機器のデモンストレーションを実施 ④ 先進機器使用者の検討 ⑤ 先進機器導入効果の検討 ⑥ 先進機器導入機種決定 ⑦ 先進機器購入準備
保護者同士の情報提供と連携支援	保護者への情報提供とニーズへの適切な対応	① 機関紙でのQ&Aの掲載 ② SNSを活用した情報提供を随時実施 ③ オンラインと並行した保護者会、勉強会の開催
	保護者同士のつながりを持てる場の提供	① 保護者同士のつながりを持てる場の提供 ② テーマ、目的別の勉強会の開催 ③ メンターの育成
センター内の環境改善	老朽化対策と療育・相談スペース拡大の検討	① 駐車スペースの確保 ② トゥモロー設備老朽化対策 ③ トゥモロー利用ニーズ調査 ④ 相談スペース拡大について検討 ⑤ 必要に応じて市へ提案し協議
	円滑な事業実施のための新規スペースの検討	① 改善個所の整理 ② 改善後のイメージ化 ③ 行政との協議

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
織・センター内の環境の改善	組織再編による加算取得	① 専門職の適正配置による加算継続取得 ② 後継者育成のための職員配置 ③ 相談支援体制の充実
利用率の向上	療育体制と療育の質の向上	① 研修ソフト活用による療育体制の充実 ② 魅力あるプログラム提供による利用目的の明確化 ③ スムーズな利用につながる療育導入のルール作り ④ 適切な職員配置とグループ編成の実施

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域支援力の向上 一般住民の認知と	一般市民や一般企業を対象にした啓発のための講演会・研修会の実施	① 関係機関、地域へ講演会・研修会テーマの情報収集 ② 地域へ向けた講演会・研修会の開催 ③ 放課後等デイサービス事業所へのコンサルテーションの実施
	よりわかりやすく活動目的、内容をPRするための最新の情報発信方法の導入	① ホームページのレイアウト検討 ② QR コードを活用した活動のPRを実施 ③ 市内事業所への情報発信方法の検討
(医療・相談・療育・総務の組織再編) 地域の中での事業展開	地域ニーズの充足と安定した経営の両立	① 関係機関からの情報収集 ② 関係機関とのニーズの整理・協議 ③ 事業展開に向けた組織体制の検討 ④ 新規スペースでの事業展開を行政と協議

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2022 年度計画
働きやすい職場の実現 組織体制の再構築による	正規職員、非正規職員を適正に配置した組織づくり	① 円滑に業務遂行できる職員体制の確立 ② 法人新体制に応じた組織体制のイメージ作成
	雇用形態に応じた明確な職務分掌の作成	① 雇用形態に応じた職務分掌の分析・整理 ② 業務が偏らない適正な職務分掌の実施
業務量の把握による 業務の効率化	業務内容の把握と整理	① 各事業の業務内容の把握 ② 各事業の業務内容の整理 ③ ペーパーレス化の推進
	療育に特化したソフトの活用による業務効率化	① 教材ソフトの活用による業務の効率化 ② 支援スキルの円滑な療育へのフィードバック
部署内、部署間でのスムーズな情報伝達と共有	各部署内、部署間でのスムーズな情報伝達・共有を進めるためのソフト導入	① 旧式パソコンの更新と SSD への換装 ② 記録作成手順書の作成 ③ 記録ソフトの導入 ④ 記録ソフトの試行 ⑤ 記録ソフトの本稼働 ⑥ 記録ソフトの活用と振り返り

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 エスポワールこじか  
施設長 伊 崎 辰 夫

### エスポワールこじか基本方針

1. 利用者一人ひとりを大切に、専門性を生かした支援を目指します。
2. 利用者の個性及び人権を尊重し、健やかな成長に向けて総合的に支援を行います。
3. 地域の保健・医療・福祉等との綿密な連携を図り、地域と共に歩む施設を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

地域に必要とされる資源(物も人も)になる。

### 2022 年度の事業計画について

今年度は「次期世代育成の基礎を固める」ことを目標に進めてきた第4期中期計画の最終年に当たります。これまで療育プログラムの多様化、施設内 OJT の実施、業務改善を中心に取り組んできました。外出活動や季節行事を取り入れたり、施設内見学者への説明、学習会等の進行や講師役等の体験、時間外の記録業務の改善など少しずつ成果が表れています。

最終年の今年度は、第5期も見据えて「スタッフの経験値と視野の拡大」を大きなテーマに挑みたいと思います。現在のこじかの活動は保護者や関係機関にも高い評価で、信頼も得られていると感じます。しかしその「強み」が、それしか出来ない狭いものならいずれ「弱み」に変わる気がします。この信頼を得ている現在の療育パターンに固執するのではなく、新しいパターンを手に入れること。つまり1対1中心の療育(担当制)や基本の活動パターンからチームパターン、活動パターンの流動的変化などスタッフが意図的に実施し経験を積むことで、多様なパターンや臨機応変に対応できるスキルを身に付け、より大きなこじかの「強み」とすることを目指します。

また継続目標として施設内 OJT は、職員数が限られる中、スタッフ一人ひとりが複数業務をこなすことで全体的なゆとりを作り出すことを目指し、研修の充実では、個々のスキルアップを目指した専門研修の機会を増やすことで、児童や保護者に自信を持って接することが出来るよう次世代育成にも努めます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2011年4月1日(委託開始)

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害児通所支援事業(第2種)	児童発達支援	10名	身体障害児童 知的障害児童	2013年4月1日
障害児通所支援事業(第2種)	放課後等デイサービス	10名	身体障害児童 知的障害児童	2013年4月1日
相談支援事業 (第2種)	特定相談支援	—	障害児	2014年10月1日
	障害児相談支援	—	障害児	

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
理解 理念の	理念の研修、ハンドブックの活用	①理事長・牧師等による理念勉強会の実施 ②ハンドブックの職員会議での活用
理念の 浸透	聖書の唱和 基本理念の唱和	①朝礼時の聖書唱和实施 ②基本理念、運営方針、平和を求める祈りの朝礼時唱和等継続

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
研修の 充実	資質向上を図る研修の実施	①ビデオ研修継続 ②スーパーバイズによる研修 ③伝達研修の実施 ④ケースカンファレンス ⑤感染症予防対策研修 ⑥発達障害実務者養成研修等の受講 ⑦強度行動障害支援者養成研修 ⑧療育活動の見学・研修
	権利擁護（虐待、身体拘束、苦情、成年後見など）等研修	①虐待防止研修の実施 ②虐待対応力向上研修 ③身体拘束適正化研修 ④リスクマネジメント研修
スキルの 向上	地域に出向いてスキルアップを図る	①園校に依頼による派遣と評価の実施 ②地域の育児支援への協力
	施設内での役割の明確化	①OJT（施設内育成）の実施 （1）見学 （2）園校訪問 （3）サビ管業務等 （4）請求 （5）保護者支援 ②準職員への評価の継続と評価方法の見直し

(3) QOL の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
保護者支援の継続	保護者勉強会の実施	①6 回以上の全体学習会等を実施 ②小グループ別勉強会の実施
	満足度アップ	①満足度調査実施と HP への公表 ②個別支援計画等の面談実施 (年 2 回以上)
充実した相談支援の	なんでも相談の実施	①利用の有無関係ない色々な保護者の相談へ随時対応
	医師による相談支援	①毎月の Dr 療育相談継続
広げる療育プログラムの幅を	個々に必要な支援計画の実施	①柔軟性豊かな療育への意識改革 (多様な形の療育) ②多様な療育プログラムの計画と実施 A=施設内イベント計画等 B=施設外イベント計画等 C=将来的 (IT 化など) 療育の検討

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
利用者の確保	目標の設定と達成	①目標利用人数の達成 2, 058 人 (86.0%) ②サービス利用計画 75 件、継続サービス利用計画 167 件 年 242 件
	保護者希望時間の配慮	①欠席による振替実施率 30%の達成
委託事業の継続	専門療育の実施	①2 市 1 町へ事業報告と評価の継続
経営意識の向上	経営状況を意識する	①毎月利用状況の共有

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
力と連携強化 関係機関への協	地域関係機関との良好な関係作り	①依頼に応じて園校訪問、参観の実施 ②養父市、朝来市、香美町自立支援協議会参加 ③2市1町関係機関の各種委員会・協議会等への協力
地域への周知	オープン療育実施	①オープン療育計画と実施
	情報発信ツールの見直し	①パンフレット都度見直し ②ホームページの活用内容検討 ③こじか便り毎月発行

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
ワークライフバランスの推進	労務管理の徹底	①有休消化率 55%達成 ②ノー残業デーの徹底
	業務の効率化	無駄の検証と改善 ①＝記録用紙の点検 ②＝療育グッズの点検 ③＝準備等の点検
コンプライアンスへの取組	リスクの意識付け	①ヒヤリハット対策検討会議の実施
	マニュアルの意識付け	①マニュアルの確認、見直し、訓練等の実施



## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸聖生園  
施設長 西郷 昌一

### 神戸聖生園の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 本人、家族の思い、また将来の夢や希望の実現に向けたサービスを実施します。
3. 全スタッフが力を集結し、総合力を持ってチームとして支援を実施します。
4. 「利用者主体」を支援のキーワードに、利用者参画が見える支援を実施します。
5. 地域行事・活動へ計画的に参加し、利用者が地域の役割を果たす支援を実施します。
6. 利用者の安心・安全を守るため、建物・設備の改修を計画・実施します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える魅力ある施設づくりを達成しよう」

### 2022 年度の事業計画について

2021年度より旧せきもりの利用者を中心に神戸聖隷オアシス2階での活動を開始し、軌道に乗り始めています。本体との活動連携を充実させるために活動班の枠を越えた神戸聖生園全体のプログラムの構築を目指し、利用者ニーズに沿った、計画的な日中活動を目指します。

昨年度、新たに設置した倉庫を利用者の方々が安心して過ごせる場としての利用のため、本館からのアプローチの整備を実施します。

利用者のライフサイクルや障害特性を踏まえた、研修や高齢化への対応、環境整備またグループホーム設立等の学びの場を検討します。

特に自閉症スペクトラム障害の利用者への支援の向上を目指し、昨年度に引き続きコンサルに活動の場を見てもらい、視覚化支援、予告支援などの専門性支援を習得し、実践に取り入れていきます。

安心・安全な日中活動の場として感染症対策の継続実施を行い利用者・ご家族に安心してもらえる施設を目指します。

コロナ禍のために生活や活動の場面で色々な制限がある中で全スタッフが利用者、家族の気持ちに寄り添うようにし、ニーズに細やかな支援や対応で応えていきます。

安定した経営の継続のために感染症対策の徹底、魅力ある活動プログラム、祝日開所等により利用率を上げる取り組みを行います。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982年4月1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	知的障害者	2008年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 基本理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
キリスト教に触れる機会を持つ	法人の原点を知る 黎明期の法人を知る 方から話しを聞く機会を持つ	①歴史資料館訪問と顧問、理事による黎明期の話を受講（4名）
	キリスト教基礎研修の参加	①キリスト教基礎講座に参加（2名）
基本理念に触れる機会を持つ	基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読（各々1回/週）
	牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習 ②聖書の奨励を紙面を通して実施。

### (2) 人財育成・人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
研修の実施	・研修の実施 新人向け、虐待防止 接遇面等	①内部研修の実施 新人向け（虐待防止、接遇面） ②外部研修の実施 専門性等（自閉症スペクトラム、高齢化の対応）
	・生活介護施設の見学	①3名以上の職員が生活介護施設の見学実施
	・外部研修報告/ 施設見学報告	①研修の実施と報告
人材確保	実習生の受け入れ	①実習生の受け入れ調整 ②実習先との連携強化

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
活動プログラムの充実	40年の感謝会	①40年を迎え、感謝の会の実施を検討
	活動班の枠を超えた連携	①各活動班の連携会議の実施（1回/月） ②計画的な日中活動の実施 月間予定、年間予定の枠を設ける
	日帰り旅行の実施	①日帰り旅行の実施方法について協議し、実施
	紙すきの安定した活動	①紙すき対応職員のシフト固定実施 ②質の向上 ③新商品の開発と販売経路の模索 ④幅広い利用者の参加
ハード面の整備	休憩できる場所の確保	①温室跡、プチハウス跡を有効利用し、利用者や職員の休憩場所などに利用するための協議を実施。 ②昨年新設した倉庫へのアプローチの整備を実施 ③新設建物の設置について検討実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
アピールの機会	外部向けアピール	①職員名札の使用の継続 ②ユニフォームの継続使用 ③花壇整理
収支分析の実施	職制会での収支分析・加算等の周知	①職制会にて収支状況の確認と分析、報告、対策の協議
	祝日開所の継続	①祝日開所の実施 ②魅力ある行事の実施
	利用者数の増加	①日々の利用数がより定員に近づけるよう新規契約者の獲得
家族支援の実施	コロナに関しての在宅支援の強化	①家族への連絡の強化 在宅支援の理解のためのアプローチ 利用者、家族に理解してもらえるように支援を実施

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域交流	プランターで花を育てて地域に設置や配布	①花をそだてる。(プランター設置) ②地域にてプランターの設置の依頼、実施
	地域ニーズに沿った、交流	①地域ニーズの把握と掘り起こし 自治会と連絡・調整 ②実施できる内容の検討 ③地域主催の行事等への参加
地域貢献	ゴミステーション清掃の実施	①毎週月曜日の清掃実施
	バス停の清掃	①定期的な清掃の実施

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安心・安全の取り組み	避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練の実施
	感染症対策の実施	①感染症対策の実施 ②備品の備蓄管理

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームせいれいやまで  
施設長 西郷 昌一

### グループホームせいれいやまでの基本方針

1. 基本的人権を尊重し、態度や言葉遣いにも誠意が感じ取れる支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供するために環境整備を実施します。
3. 利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
4. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
5. 世話人・支援職員らが協力して支援内容を工夫し、温もりのある事業所を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

### 2022 年度の事業計画について

昨年、利用定員を7名から10名に変更しました。新たに入所された方も生活に慣れ、落ち着いた生活をされています。それぞれの生活の在り方も整いつつあり、ホームが順調な運営ができています。しかしながら、支援のありかたについて、個々の職員の考え方や思いの違いから、マニュアルでは書ききれない細かな部分での相違が多くみられ、問題となっています。職員全体のコミュニケーションが必要であると感じますが、シフト勤務のため、全員の意見調整をすることが必要となります。そのため、サービス管理責任者をさらに重点的に配置し、コミュニケーションを強化していきます。同時に、専門性の向上を図る学ぶ機会を得て、より利用される皆さんに寄り添えるホームづくりを進めます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2005年8月1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害者	2006年10月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 基本理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念に触れる機会を持つ	基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①職員会議において、基本理念の唱和とハンドブックの輪読（1回/月）
	牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
人材育成	専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③世話人・支援員とのミーティング継続 ④バックアップ職員と情報共有継続

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修と振り返りの実施 ③満足度調査の実施
	利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の調整
	安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①家族会の実施 ②サビ管の常駐とスーパーバイズ ③問題や相談に対して速やかな対応実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
経営	利用率の確保	①目標利用率 88% ②週末帰省の短縮に向けての支援 ③週末帰省のない利用者対応を含め 365 日開所を継続
	支援者の安定的雇用	①支援者間の連絡・調整の実施 ②職員の給与・残業等の検証とコストカット
	バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員へ支援内容提示と共有化（ホームの支援マニュアルの整理）継続

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域交流	地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供（自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等）
	環境美化	①除草の実施（年 2 回）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安心・安全の取り組み	避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施（計 2 回/年）
	感染症対策の実施	①新型コロナへの対策 ②その他の感染症対策の実施

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームたいのはた東  
施設長 西郷 昌一

グループホームたいのはた東の基本方針

1. 基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりの個性や思いを尊重した支援を実施します。
2. 安全で安心できる場を提供し、日常生活の充実と豊かさを提供します。
3. 利用者が地域の方々に愛され、地域と共に歩む事業所を目指します。
4. 世話人・支援員・関係者が協力し、お互いに認め合う温もりのある事業所を目指します。
5. 将来グループホームを希望される利用者の体験利用を応援します。
6. 地域の福祉相談窓口として、社会福祉で地域に貢献できる事業所を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「一人ひとりの支援力アップと環境整備でご利用者のニーズに応える、魅力ある施設づくりを達成しよう」

2022 年度の事業計画について

2021 年度に新規利用者がありましたが、生活にも慣れ、落ち着いて過ごすことができました。なお、以前からご利用も含め、高齢化により、身体的支援の必要があり、トイレの手すり設置や玄関の石段の手すりの整備などを行い生活しやすいホームになるよう改修をしました。今年度も快適な生活ができるよう必要な設備の整備を行っていきます。また、利用者のニーズに合わせて、年間 365 日稼働に向かって準備・調整をしていきます。

体験利用については、ニーズが多く、継続して実施していく予定ですが、新型コロナウイルスの流行の度合いによっては、実施できないことも考えていきます。

たいのはた東町での生活も落ち着き、地域の一員としての市民権を得られつつあることから、さらに地域清掃や夜間防犯巡回などの地域活動に積極的に参加していけるよう支援していきます。

人材育成に力を入れ、基本理念の学びの機会や各種研修に積極的に参加し、総合力で支援できるようにバックアップ施設と連携し歩んでいきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2016 年 2 月 1 日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助 (体験利用型含む)	6 名	知的障害者	2016 年 2 月 1 日



## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 基本理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念に触れる機会を持つ	基本理念の唱和/ ハンドブックの利用	①基本理念の唱和とハンドブックの輪読(1回/月)
	牧師、理事を通じて基本理念の連動性を学び、職員で考える機会を持つ	①牧師、もしくは理事より基本理念と支援の連動性について学習

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
人材育成	専門性の向上と情報共有	①専門研修の参加 ②家族会開催 ③定期的なミーティングの実施(毎月第2木 14:00~ ④バックアップ職員と情報共有継続

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
サービス	権利擁護・虐待防止のための支援	①法令順守の意識化と支援のマニュアル化 ②虐待防止研修(年2回)・スタッフ会議(毎月第2木)の実施 ③満足度調査の実施
	利用者の健康状態に応じた支援提供	①定期受診の支援・付添いの実施 ②傷病時・緊急時の付添いの実施 ③利用者の状況に合わせた送迎の調整
	安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	①定期訪問 ②地域の方たちとの関係構築、交わりの機会提供 (自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等) ③問題や相談に対して速やかな対応実施 ④避難訓練の実施(2回/年) 避難経路の掲示

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
経営	利用率の確保	①利用率 94%維持を目指す ②体験型利用者受入れを延べ利用数 10 日/月を目指す ③家族の協力要請と週末帰省の短縮を実施 ④365 日開所に向けて検討。
	コスト削減	①消耗品や調味料などの無駄を省く努力 ②水光熱費等の節約 ③残業等の見直し
	支援者の安定雇用	①職員の給与検証とコストカット ②人材（知人等）情報の収集と確保
	バックアップ体制の継続	①バックアップ施設（神戸聖生園）の体制継続 ②バックアップ職員への支援内容提示と共有化 （ホームの支援マニュアルの整理） ③共有化・連絡・相談の拡充のためパソコンでの連絡 ④環境美化・除草の実施（毎月）
	体験型利用の見直し	①開所以来の体験型利用の継続について検討

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域交流	地域の住人としての活動	①地域の方たちとの関わり、交わりの機会提供 （自治会活動等、掃除、近隣へのあいさつ等）
	環境美化	①除草の実施（毎月）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安心・安全の取り組み	避難訓練の実施 防犯訓練の実施	①避難訓練、防犯訓練の実施（2 回/年）
	感染症対策の実施	①新型コロナへの対応 ②その他の感染症対策の実施

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸愛生園  
施設長 加藤 航

### 神戸愛生園の基本方針

1. 唯一無二の存在である利用者の命を守り、その人らしい生活を送ることができるように支援します。
2. 態度、言動がどのような影響を与えるかよく考え、人権に配慮したケアに努めます。
3. 利用者のニーズに基づき、従来からのサービスに固執せず、神戸愛生園の総合力を持って柔軟にサービスを提供します。
4. 施設機能の情報提供、相談を積極的に行い地域に必要とされるよう努力します。

### 第4期中期計画のビジョン

「ここにいて良かった！」と言える施設作りを目指します

### 2022 年度の事業計画について

神戸愛生園は今年度創立 40 年を迎えます。昨年度末には長年の事業運営が評価され、御下賜金を拝受いたしました。今後も誠実な事業運営を行ってまいります。40 年の記念行事はコロナ禍でできることを考え、ご利用者をはじめ多くの方に感謝を込めて行っていきます。また第4期中期計画の最終年にあたり、3 年間を総括するとともに、次期中期計画の策定を行ってまいります。

コロナへの警戒が続く今、普段の感染防止対策はもとより、有症状者発生時や感染者を広げないための対策を整備致します。また大規模災害時などに対応できるように BCP（事業継続計画）を策定し、非常時でも事業を断絶することなくご利用者を支える仕組み作りを行います。

人材確保では複数の広告媒体や SNS 等を活用し、幅広い世代に施設の魅力を発信し、人材確保につなげていきます。育成部門では、外部講師と協働して「働きやすい職場」のあり方を追究し、職員の職場への安心感と仕事の充実感を自ら見出す事で、人材定着につなげていきます。

EPA（経済連携協定）職員は 2022 年 2 月 1 日に 3 人目の候補者が着任致しました。丁寧なサポートで就業・就学・生活の支援を行っていくとともに、2019 年 12 月より就労している 2 人の 1 期生は年度末に初めての国家試験を迎えます。合格につながるように、バックアップしてまいります。

### 1. 事業概要

開設年月日：1982 年 5 月 10 日

種 別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第 1 種）	施設入所支援	60 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業（第 2 種）	生活介護	60 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
障害福祉サービス事業（第 2 種）	短期入所	5 名	身体障害者	2006 年 10 月 1 日
公益事業	神戸愛生園診療所	—	—	1984 年 4 月 10 日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
神戸愛生園基本 方針の浸透 法人基本理念・	業務内で理念を意識化する工夫	①アピールボードの作製。 ②理念に基づいた業務遂行と振り返り
更なるEPA職員の獲得	更なるEPA職員の獲得	①1年目EPA介護福祉士候補者の就業サポート

### (2) 人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
人材確保・定着 づくり (魅力ある職場)	コンサルティング、研修等、外部資源活用の検討	① グループスーパービジョンの継続 外部講師との連携、協働を通して「働きやすい職場」の在り方を模索。離職原因の分析と対策。定着率の向上を目指す。
	近隣学校へのアプローチ(大学・専門学校にアルバイト募集)	① 新型コロナウイルスの感染状況や学校の状況を踏まえ対応していく ② 広告媒体に掲載している内容の見直し ③ 広報とも連携をし、人材確保促進につながるSNS上での記事のアップ
スキルアップ・キャリアパスの明確化	スキルアップ・キャリアパスの明確化	①キャリアパス・研修システムの完成 ・キャリアパスモデル、園内研修システムを合致させる ・各職員階層の役割、どのような職務にどのような立場で就くのか、そこに到達するためにどのような経験を積みどのようなスキルを身に付ける必要があるのかを職員それぞれが理解できるようにする。又、それを踏まえた上で自分がどのように行動すれば良いかを理解できるようにする

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
就労・就学・生活ができる環境の整備 EPA職員が安心して就労・就学・生活ができる環境の整備	EPA職員が安心して就労・就学・生活ができる環境の整備	①EPA職員の業務履修サポート（就学含む）と不安・困りごとの解消。介護福祉士試験支援

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
終末期ケアを考える	生育歴を通して、QOL、終末期を考える	①全利用者の生育歴調査 ②医療的ケアが重度化した際の利用継続について説明開始（エンディングノート）
	援助技術の向上	①介護技術向上研修継続実施 ②相談援助技術研修の実施

### (4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
事業収入を安定させる	感染予防の取り組み強化	①新型コロナウイルス発生時マニュアル作成 ②発生時対応訓練実施
	SS受け入れ体制の改善	①昨年度以前に立てたコロナ禍での受け入れ基準を再考し、現在の状況に応じた環境を整える。 ②待機利用者の積極的確保
ICT, IoTの活用	ICT, IoTの活用	①電子印鑑決済の活用定着 ②眠りスキャン活用による体調管理、業務効率化の更なる向上

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
共生 地域との	地域行事への参加	①コロナ感染状況を踏まえ、地域行事への参加 ②地域への還元
共生 地域との	福祉避難所としての環境整備	①必要備品の整備（ローリングストック） ②地域生活障害者の受入れマニュアルの策定 ③災害時受入れ対応訓練の実施
充実 広報活動の	広報活動の充実	①フェイスブック・インスタグラム更新 ②機関紙発行（40周年記念号）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
で 魅力 ある 職場 づくり による、 安全	指導、育成時間 捻出のための 業務分析、改善	①勤務シフトの再構築（パートシフトを含む）
		①BCP の作成
施設 への 着手	建て替え委員会 の継続開催	①資金計画の策定

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 きたすま障害者相談支援センター

施設長 三木 卓也

### きたすま障害者相談支援センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者（児）とその家族等からの相談に対し、必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係諸機関との連携を図り、障害福祉サービスの利用援助（サービス等利用計画の作成を含む）等適切な支援を行います。
2. 相談者の意思及び人権を尊重して障害特性や本人・家族のニーズ等を的確に把握し、公正・中立性を保ちつつ常に相談者の立場に立った地域生活支援の提供に努めます。
3. 相談者やその家族等のニーズ、想いを受け止め、適切な助言や情報提供等の支援ができるよう、職員の専門性の向上に努めます。
4. 障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域を目指し、須磨区自立支援協議会の事務局として活発な運営を専門性とチームワークで行います。

### 第4期中期計画のビジョン

**不安や困りごとがありながら地域で暮らす方々が気軽に相談でき、豊かなつながりを大切に親身で思いやりのある対応ができるセンターを目指します。**

### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画（2020年～2022年）の最終年度を迎え、神戸市からの委託契約（2021年～2025年）の2年目となります。センター事業に求められる役割を引き続き担うことに感謝し、第4期中期計画のビジョンの実現に向けた取り組みを確実に進めていきます。

少子高齢社会や人口減少による核家族化の進行によって、人間関係の希薄化や社会とのつながりが弱まり、孤立、貧困、格差、引きこもり、ヤングケアラーなど地域の生活課題も複雑かつ既存の制度だけでは対応が難しい深刻な問題を抱える傾向が見られます。

私たちは、相談に至った背景や経緯を丁寧に聴き取り、相談者の困りごとや思いを親身に受け止め、地域の関係機関とのネットワークを活かしたより良い相談支援を心がけます。

そのために、常に社会的に弱い立場の人々の権利を擁護する専門職としての自覚と責任感を持ち、OJTによる相談員自身の自己覚知、センター全体の相談支援力の向上に向け、内部研修の定期的かつ継続的な実施、外部研修への積極的参加、定期ヒアリングやスーパービジョンによるサポート、ワークライフバランスの推進など、安心して生き活きと働くことができ職員間の風通しの良い職場環境づくりに努めます。

自然災害や感染症による生活の制限、技術革新による新しい生活様式の導入は、障害のある方や社会的に弱い立場に置かれる方々の日常生活や社会生活に特に大きな影響を及ぼしていますが、人と人との“つながり”を大切にして、障害のある方やご家族が困った時に身近に相談できる思いやりのあるセンターを目指します。

## 1. 事業概要

開設年月日：2014年4月1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 (第2種)	一般相談支援	—	身体障害者	2014年4月1日
	特定相談支援	—	知的障害者	
	障害児相談支援	—	精神障害者	
公益事業	相談支援事業	—	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2014年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
法人理念の浸透と権利擁護の実践に向けた取り組みの	価値観と出会う場面の提供	①基本理念の唱和 (月2回) ②年間聖句の掲示 (年間) ③理念ハンドブックの読み合わせ (月1回)
	理念に触れ学ぶ機会の提供	①権利擁護研修 (内部) の実施 (年1回) ②各種理念研修 (外部) への参加 (1人/年)

### (2) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
相談支援力の向上に向けた取り組みの実	相談支援スキルの共有と向上	①ケース会議の開催 (月1回)
	研修機会の提供	①研修 (内部) の実施 (年2回) ②研修 (外部) 参加 (適宜)
	権利擁護と相談支援の質の向上	①虐待防止チェックリストの実施 (年2回) ②顧客満足度調査の実施 (年1回) ③施設セルフチェックシートの活用



(3) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
委託事業の公正かつ確実な取り組みの実施	事業の継続受託	①事業の安定運営（2021 年度～2025 年度）
	各委託調査の確実な実施	①障害支援区分認定調査（12 件／年） ②障害福祉サービス勘案調査（360 件／年） ③移動支援サービス聴き取り（2 件／年） ④訪問入浴サービス聴き取り（2 件／年）
計画相談支援（個別報酬）ニーズに対応した取り組みの実施	加算要件を満たす体制の維持	①主任相談支援専門員研修の受講を検討（1 名／年） ②相談支援従事者現任研修の受講（1 名／年） ③加算研修（行動、要医療ケア、精神）の受講（各 1 名／年）
	個別加算の取得を推進	①個別加算（集中支援、モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所）の取得（7 件／月）

(4) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
相談支援人材の確保・育成に向けた取り組みの実施	スーパービジョンの実施と強化	①個別スーパービジョンの実施（2 か月ごと年 6 回）
	定期ヒアリングの実施	①個別定期ヒアリングの実施（4 か月ごと年 3 回）

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域における身近な相談窓口としての取り組み	制度の狭間にある生きづらさを抱えた方への対応	①制度の狭間にある福祉ニーズの把握と整理 ②地域貢献部会と連動した取り組みの検討
地域と積極的に交流する活動の実施	須磨区自立支援協議会の積極的な取り組み	①全体会／運営委員会の開催（年1回／年4回） ②作業部会（就労、共生、販路拡大、学習、親子、相談）の実施（適宜） ③発達の気になる保護者向けのピアカウンセリングの実施（年9回）
	地域福祉ニーズに応じた支援の実施（公益的取り組み）	①ほっとかへんネット須磨（コア実務者会）への参画と他法人連携の強化 ②分野（高齢・障害・児童）を超えた「福祉なんでも相談窓口（総合相談窓口）」の実効性ある仕組みの検討

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
働きやすい職場環境への取り組み	業務改善の取り組み	①実態把握と整理（担当ケース数、調査件数、計画件数、休日出勤日数、時間外(夜間)電話当番回数）の適正な分担（毎月） ②BCP(事業継続計画)の作成に向けた取り組み
	働き方改革への対応	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得（最低5日以上） ②各職員の超過勤務時間10時間以内（月） ③WLB 推進に向けた人事・労務・危機管理部会の取り組みと連携

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸聖隷総合相談センター

施設長 三木 卓也

### 神戸聖隷総合相談センターの基本方針

1. 地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援サービス（サービス等利用計画の作成）の提供等、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう相談支援を行います。
2. 必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えます。
3. 地域が抱える課題のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談の対応、ニーズの把握に努め新たなサービスを創造します。

### 第4期中期計画のビジョン

**障害分野に限らず地域の方々の不安なことや困りごとが気軽に相談できるセンターを目指します。**

### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画（2020年～2022年）の最終年度を迎え、事業開始7年目を迎えます。また、昨春に竣工した「神戸聖隷オアシス」（友が丘総合事業）1Fに事務所を移転し2年目となり、第4期中期計画のビジョンの実現に向けて、本来の使命である地域の福祉ニーズに対応した取り組みを確実に進めていきます。

具体的には「神戸聖隷オアシス」1Fにおいて、地域の高齢者や子どもまで世代を問わない方々が気軽に集いご利用いただける食事提供スペース「Tunagari～あつまり処～」を昨年7月にオープンし、すでにたくさんの地域の方々にご利用いただいております。少しずつ、地域とのつながりが育まれてきている中、今後は、一人暮らしの方、引きこもりがちの方、孤立感を感じながら子育てをしている方、独りで食事をとらざるをえない子ども、など様々な理由で社会とのつながりを求めている福祉的ニーズを抱えた方々の困りごとに少しでも応えることのできる多様な地域貢献の取り組みを進めていきます。

また、法人内事業所のご利用者を中心に約300名の方々の計画相談支援サービス（サービス等利用計画）を提供させていただき、ご利用者ご家族お一人おひとりの希望する暮らしに向けて必要な福祉サービスの利用調整や丁寧な情報提供を心がけます。さらに、ご家族の高齢化などにより思いがけない生活上の突発的な変化や困りごとが起こった際にも、ご利用者の意向に沿った速やかなサービス調整を図り適切な相談支援に努めます。

さらに、親なき後の安心・安全な生活という大きな社会的テーマとも関連する権利擁護の観点から、成年後見制度活用推進委員会と協働のもと成年後見制度に関する研修会の企画への参画、制度利用のための具体的な申立て支援などにも対応していきます。

感染症の流行などによる日常生活への制限はありますが、地域の関係機関とのつながりを大切にして、ご利用者、ご家族に気軽に利用していただける地域の身近な相談窓口を目指します。

## 1. 事業概要

開設年月日：2016年4月1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業 (第2種)	特定相談支援	—	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2016年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
法人理念の浸透と権利擁護の実践に向けた取り組みの実施	価値観と出会う場面の提供	①平和を求める祈りの唱和 (月2回) ②年間聖句の掲示 (年間) ③理念ハンドブックの読み合わせ (月1回)
	理念に触れ学ぶ機会の提供	①権利擁護研修 (内部) の実施 (年1回) ②各種理念研修 (外部) への参加 (1人/年) ③神戸愛生伝道所の竹内牧師による講話 (月1回)

### (2) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
相談支援力の向上に向けた取り組みの実施	相談支援スキルの共有と向上	①ケース会議の開催 (月1回)
	研修機会の提供	①研修 (内部) の実施 (年1回) ②研修 (外部) 参加 (適宜)
	権利擁護と相談支援の質の向上	①虐待防止チェックリストの実施 (年2回) ②顧客満足度調査の実施 (年1回) ③施設セルフチェックシートの活用

(3) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
計画相談支援（個別報酬）ニーズに対応した取り組みの実施	計画相談支援、モニタリングの確実な実施	①サービス利用支援（260 件／年） ②継続サービス利用支援（410 件／年）
	加算要件を満たす体制の維持	①相談支援従事者現任研修の受講（1 名／年） ②加算研修（行動、要医療ケア、精神）の受講（各 1 名／年）
	個別加算の取得を推進	①個別加算（集中支援、モニタリング、サービス担当者会議実施、入院時情報連携、退院・退所）の取得（4 件／月）

(4) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
相談支援人材の確保・育成に向けた取り組みの実施	スーパービジョンの実施と強化	①グループスーパービジョンの実施（毎月） ②個別スーパービジョンの実施（3 ヶ月ごと年 4 回）
	定期ヒアリングの実施	①個別定期ヒアリングの実施（4 か月ごと年 3 回）

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域における身近な相談窓口としての取り組み	地域の関係機関とのつながり強化	①北須磨団地自治会ふる里まつり、運動会への参加（各年1回） ②地域支え愛学習会への参加（年2回） ③地域包括ケア会議（介護保険）への参加（年2回）
	神戸聖隷オアシス（友が丘総合事業）に係る地域貢献活動への取り組み	①「Tunagari～あつまり処～」の運営 ②地域住民、関係機関への広報 ③地域福祉ニーズの把握と整理（地域貢献部会との連携による） ④フードパントリー拠点としての取り組みの検討と実施（地域貢献部会との連携による） ⑤認知症支援に係るキャラバンメイトによる研修受講、地域向け認知症サポーター養成講座の開催の検討（地域貢献部会との連携による）
親（家族）なき後の生活に対する権利擁護への取り組み	成年後見制度の理解・啓発と利用の促進	①成年後見制度勉強会の開催（年1回） ②申立て支援の必要性の高いケースの把握と優先順位付け

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
働きやすい職場環境への取り組み	業務改善の取り組み	①業務（担当ケース件数、時間外(夜間)電話当番回数）の適正な分担（毎月） ②BCP(事業継続計画)の作成に向けた取り組み
	働き方改革への対応	①各職員が有給休暇付与日数の50%以上取得（最低5日以上） ②各職員の超過勤務時間5時間以内（月） ③WLB 推進に向けて人事・労務・危機管理部会の取り組みと連携

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸友生園  
施設長 井上 待子

### 神戸友生園の基本方針

1. 利用者の障害状況に応じたプログラムの提供に努めます。
2. 利用者のニーズに応えられるよう高い専門性を持って支援を行います。
3. 安心・安全に地域生活が営めるよう支援を行います。

### 第4期中期計画のビジョン

地域のネットワーク体制を構築出来るスキルを身に付けた職員集団を目指します。

### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画の最終年となる今年は、掲げたビジョンを実践し地域とのネットワーク体制の構築を利用者の為に実現できるよう、全職員の支援力向上に努めます。定例化していたケース会議も、より必要な支援に対してアプローチが出来るように書式の見直しや会議の方法を工夫し、丁寧なケースワークが出来るようにブラッシュアップしていきます。

作業評価と工賃配分の新体系を昨年導入し、今年度より評価会議を定例化します。利用者の作業評価について全職員で議論することで、作業面での利用者理解が深まり一人の利用者を多面的に捉える仕組みを活かし、また施設内の出来事から「気付きツール」を活用することで、職員全体の支援に対するアンテナを高く持てるような振り返りの機会を設け、利用者にしかりと寄り添うことが出来る職員集団となれるよう取り組みます。

一昨年、昨年度と経営的に非常に厳しい状況でしたが、少しずつ回復傾向となっています。再取得となった視聴覚体制加算も非該当とならないように、月末にはチェック表を用いて確認し、継続して加算を取得します。また、出勤率を上げるためにも見学や実習の受け入れも行います。

利用者に充実感を持っていただけるような作業提供をし、作業量を確保しながら、工程数の多い作業が提供できるように取引先企業との関係性を深めていきます。法人内の取組でもある共同受注窓口としての役割も果たし、スケールメリットを活かした受注を積極的に行います。

ジョブコーチ事業については、今年度も新型コロナウイルスの状況を見ながら支援の再開時期を検討していきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：1984年4月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	40名	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2008年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
支援の実践 理念に沿った 理念の浸透と	理念の本質の理解と共有	①内部研修にて理念の理解（理事長による研修会の実施） ②法人創設時の思いに触れる勉強会の実施（WEB研修を企画）
	理念の実践	①理念に沿った支援の在り方を内部研修で学ぶ（2回/年）
人権擁護の徹底	虐待・不適切ケアの防止	①虐待防止チェックリストの実施（2回/年） ②虐待防止判定基準表の事例検討会実施（1回/年） ③虐待防止の内部研修を実施（2回/年）
	日常の支援における『気づき』の共有	①職員会議で『気づきツール』の情報共有と事例検討（1回/月）

### (2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
職員のスキル向上	研修会への参加	①職員一人ひとりが研修会に参加（法人内研修含む） ②研修報告会を実施し学びを共有
	実習生への指導にて資質の向上	①正規職員が実習指導担当の役割を担う（1回以上/年）
マニュアル整備 化を目指す	各種マニュアルの整備とブラッシュアップ	①業務マニュアルのブラッシュアップ（継続） ②支援標準化マニュアルの更新（継続） ③作業マニュアルの整備とブラッシュアップ（継続）

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
利用者が達成感を持って 作業の提供	利用者個々の達成感・充実感の把握と共有	①利用者個々が望む『働き方』のアセスメントと作業提供 ②工賃配分新体系を導入し、年2回の評定会議の実施 ③必要に応じて評価項目の見直し
	利用者ニーズに沿った多種多様な作業の確保	①年間2種目の新規作業の確保



重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
利用者を持てる作業の提供	自主生産品の充実と事業拡大	①ギフト商品の販売（4回/年） ②アドアド市の定期開催（12回/年） ③すまいんど部会の活動参加
利用者の安心・安全につながる支援の提供	ケース会議の実施	①誕生日を基準にケース検討会を開催（12回/年）
	サービスの質の向上	①利用者基本情報のフォーム改善 ②利用者満足度調査の実施（1回/年） ③第5期中期計画に向けて新規グループホームの検討
	防災・防犯対策	①防災訓練実施（2回以上/年） ②防犯訓練実施（2回以上/年） ③食料品などの備蓄品購入のため、消費期限や数量の確認（1回/月）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安定した収入の確保	定員を守った中での利用者数の向上	①感染状況を注視しながら見学・実習の受け入れ ②営業日数を280日設ける ③職員会議で利用者の出勤状況等を確認 ④利用率の向上（目標79%） ⑤平日に余暇活動を実施し出勤率を上げる
	ジョブコーチ事業の継続	①感染状況を見ながら、施設外対象者へ支援の実施
減 模 安 定 的 経 営 索 と 経 費 削 減 の 削 削 の	仕事の効率化への取り組み	①定時退勤と早期退勤を推進し、月毎に残業時間を検証
	経費削減の取り組み	①経費削減やコスト意識を高める為、職員会議にて経費、コストの把握（1回/月）

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
携を 学 地 域 校 校 の 各 種 図 の 連 携	地域の支援学校に対する連携強化	①進路担当者と相談体制の構築に向けた協議の場を持つ（2回/年）

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
関係の構築 地元自治会や各種団体等と良好な関係の構築	自治会および各種団体主催イベントへの参加	①感染状況に応じたイベントへの参加 ②Tunagari でのお茶販売を通して住民と交流 ③須磨区自立支援協議会への参加

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
構築 職員のワークバランスの	有給休暇取得の推進	①有給休暇取得率の向上（目標 100%）
	超過勤務労働削減の取り組み	①職員ひとり一人の業務量を把握し、必要に応じて改善に向けた実行策を推進
マニュアルの整備	各種マニュアルの作成・整備	①法人基本マニュアルのブラッシュアップと職員への共有

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホーム南落合  
施設長 井上 待子

### グループホーム南落合の基本方針

1. 利用者一人一人の基本的な人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者の働きたい思いを大切に「その人らしい暮らし」を支援します。
3. 安心・安全な生活が送れるよう環境づくりを行います。
4. 地域と連携し、地域に根差したホームとなるように努めます。

### 2022 年度の事業計画について

コロナ禍の生活で、利用者の外出機会が少なくなったこともあり、筋力低下がみられる利用者が増えてきています。その為の昨年度は転倒事故による救急搬送もあり、利用者の状況に合わせた環境を整える必要が発生しています。また、帰省中にご家族が入院するなどの事案もあり、利用者の機能低下とご家族の高齢化による支援が求められてると感じています。

地域交流に関しては、自治会へ参加し役割を担うことで他の住民の皆さんとの交流も進んでいます。今後も継続した自治会への積極的な参加をすることで、利用者が地域の一員として生活が出来ればと願います。

世話人の体制も十分とは言えませんが、バックアップ施設で 11 時間/週、支援に入っていますが、今年度中に 5.5 時間/週に出来るよう人材確保に努めます。また、夜間や早朝の緊急時対応についても再整備をしていきます。

利用者の健康管理については、ヘルパー事業所や訪問看護ステーションとの連携を密にし、受診を定期的に行い皮膚疾患や歯科衛生など、家庭では十分に出来ていなかった事柄について支援を行えるよう関係機関と連絡調整を行い、安心して生活が送れるように支援をしていきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2019 年 10 月 1 日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	5 名	身体・知的障害者	2019 年 10 月 1 日

### 2. 2022 年度の主な計画と推進策

#### (1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	安心・安全な環境の提供	①利用者の状況に合わせた環境整備の実施 ②利用者の支援を統一した支援の実施 ③コロナ禍での余暇活動を利用者に併せて提案 ④移動支援事業所と連携し、情報の共有を図る

区分	課題	具体策
QOL	権利擁護のための支援	①世話人・生活支援員への研修実施 ②虐待防止チェックリストの実施（2回/年）
	健康管理	①健康観察を行い、受診時の状況を訪問看護事業所・移動支援事業所と情報共有
	マニュアルの整備	①世話人業務マニュアルのブラッシュアップ
	地域との連携	①地域の一員として自治会活動への積極的な参加
	防災対策	①避難訓練の実施（2回/年） ②緊急通報装置操作訓練の実施
財務	利用率の安定	①365日のサービス提供と、利用率88%維持
	バックアップ機能の体制整備	①緊急時の神戸友生園による迅速かつ臨機応変は対応
人材育成	基本理念の浸透	①世話人への内部研修の実施 ②法人研修への積極的な参加
	専門性の向上	①世話人・生活支援員の外部研修への参加

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸光生園

施設長 吉本 ひろみ

### 神戸光生園の基本方針

1. 「隣人を自分のように愛すること」の具現化を目標に、法人の基本理念に掲げられた行動規範「個別支援の推進」「利用者の人権擁護」「職員の専門性の醸成」「地域社会との連携」を中心テーマとして支援に努めます。
2. 「利用者の笑顔」をひとつの評価の基準にし、より良いサービスの提供を目指します。
3. 利用者ひとり一人の可能性、能力、個性が発揮できる支援を行い、そのための職員の専門性の向上を図ります。

### 第4期中期計画のビジョン

#### 目指そう！利用者支援の質の向上とワークライフバランスの両立

#### 2022 年度の事業計画について

第4期中期計画もいよいよ最終年度となります。新型コロナウイルスの感染状況が一度は収まったかに見えましたが、2021年度も振り回された1年で、活動には色々と制約を受けました。2022年度は当初の予定には遅れながらも何とか目標を到達させるよう努めます。コロナ禍にあっても、「ひかりマルシェ」は戸外での活動であることから休止をせずに続けてきており、新門扉も活用して少しずつ来場者が増えており、更に参加事業所や品目を増やして活性化を図ります。利用者さんの創作活動から生まれたオリジナルブランドの商品も少しずつ種類を増やし、販路として開始したネット販売を充実させます。また、大きな課題となっている職員のワークライフバランス（休憩時間の確保）についても休憩室の有効活用と共に取り組めます。業務のペーパーレス化や効率的な会議の在り方については職員の超過勤務減少につなげてコスト削減を図ります。これまで中々取り組めなかった「自己評価」については第三者評価結果が低かった項目について改善できるよう検討し、より良い支援を提供できる施設を目指します。

#### 1. 事業概要

開設年月日：1985年4月1日

種別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	54名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労継続支援B型	30名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労移行	6名	知的障害者	2007年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援	—	知的障害者	2018年10月1日

## (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
理念の理解を深める	理事による講演	①種谷理事による講演 (1回/年)
	キリスト教精神の理解	①竹内牧師による講演 (3回/年) ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
神戸聖隷の歴史を学ぶ	合同施設見学の実施	①上半期に参加ができる但馬のイベントを検討して神戸地区の参加事業所を決定 ②下半期に但馬のイベント参加と事業所見学

## (2) 人材確保の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
魅力ある実習の提供	職場全体で実習生を受け入れる	①実習指導ツール（実習予定表）の運用を通じた改善の実施
専門性の向上と研修の充実	内部研修の充実	①外部研修を基に内部研修実施 (3回/年) ②内部研修書式の活用と改善
	職員の個性を生かせる研修への参加	①研修リスト作成 ②職員アンケートによる希望する研修への参加 (全職員対象・1回/年)

## (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
生活環境の改善	快適な生活スタイルの維持	①空調維持管理・消毒備品の維持管理マニュアルの更新と維持管理の継続 ②玄関・入り口周辺的环境整備と維持管理の定着
安定の工賃	オリジナルブランドの確立	①オリジナルブランドの構築 オリジナル商品の製作と開発

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
	在庫管理システムの構築	①在庫管理システムの運用継続
	商品の販路拡大	①ネット販売の実施 ②味噌の販路拡大

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
職場 魅力 あり つくり	職員の休憩スペースの設置	①休憩室の満足度調査と改善（2回/年）
	職員の休憩時間の確保	①休憩時間（50分+10分）の実施（6月実施）
業務の 効率化	支援記録ソフトの活用と業務効率化	①支援記録ソフトを活用した事故報告書のペーパーレス化
	パソコンのスキルアップ	①機関紙の書式（ひな形）の作成 ②業務効率化を図るためにパソコンのスキルアップ講習会を実施（応用編、エクセル・ワード・パワポ 2回/年）
経営の 安定	コスト意識の向上	①光熱水費を削減するためにキャンペーンを実施 前期（エアコンフィルターの定期清掃）、後期（節電）
	経費削減の取り組み	①ペーパーレス化による経費削減の取組を継続

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域との 交流 を 深 め る	ミニバザーを通して地域交流を目指す	①ひかりマルシェの魅力向上（地域の事業所や協力店の開拓） ②地域交流を目指すためにイベント実施（地域認知度アップ） ③年に3回のアンケートを実施

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域貢献の実践 防災を通じた	防災イベントの継続	①防災イベントの実施（11月）
	福祉避難所の機能充実	①防災物品置き場の管理 ②福祉避難所開設訓練の実施（10月） ③不足物品の購入

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安全・安心な環境の構築	防犯対策の充実を図る	①警察の協力による防犯訓練の実施（1回/年） ②BCP計画の策定
ワークライフバランスの実践	残業時間の減少への取り組み	①半日土曜開所を活用した効率的な業務の推進を継続 ②支援記録ソフトを活用した業務効率化の推進
施設運営の向上	自己評価への取り組み	①自己評価の実施



## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名グループホームみなみたもん  
管理者 吉本ひろみ

グループホームみなみたもんの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援を行います。
2. 利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」が実現できるように支援します。
3. 安心して安全な生活が送れる環境づくりを行います。
4. 地域の一員としての役割を担えることを目指し、「障害理解への啓発」に努めます。

2022 年度の事業計画について

開設 9 年目となり、世話人・生活支援員も開設当初のメンバーと入れ替わりました。それぞれに利用者の障害特性を理解しようと努力し、話し合いの機会を持つなど積極的な意識が感じられます。それに応えられる管理者・サービス管理責任者であることが必要です。グループホームで生活する方達の選択肢や権利などを改めて考え、かつ安心・安全な暮らしを守るというスタンスを忘れずにサポートします。新型コロナウイルス対策に随分と制約される事がこれからも懸念される中でどれだけの事が出来るかは悩ましい所ではありますが、工夫しながら少しでも「豊かな暮らし」を実現できればと思います。また、高齢化が少しずつ感じられる方もおられ健康面での管理も重要な課題となってきました。日頃からの体調変化などに充分気を配り定期的な検診等も継続します。

### 1. 事業概要

開設年月日：2014 年 5 月 1 日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業 (第 2 種)	共同生活援助	5 名	知的障害者	2014 年 5 月 1 日

## 2. 2022年度の主な計画と推進策

### (1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	生活環境の充実	①入居者の家族・後見人・保佐人との良好な関係を維持して、情報共有と連携の基に安定した支援の実施 ②利用者の相談の機会を確保（世話人・管理者）し、住みやすくプライバシーに配慮した環境の提供 ③個々のマニュアルを基に、統一した支援の実施
	健康管理	①基礎疾患など持病の状態の把握と主治医との連携、及び通院支援（ガイド調整）による健康維持 ②体調不良時の日中支援など入居者が安心して生活できる環境の維持
	地域との連携	①地域の一員として自治会行事へ積極的な参加 ②自治会へ役員として参加
	防災対策	①消防設備を使用しての避難訓練・通報訓練の実施（年2回） ②災害時を想定した防災訓練の実施（年1回） ③感染症対策としての指針の整備、備品の補充と管理 ④BCP計画の策定
財務	経営の安定	①週7日のサービス提供と利用率90%維持 ②ガイド事業所や通園事業所との連携を密にすることによる生活の安定を支援 ③定期的な帰省を維持し、経営の安定と生活のリズムを確立 ④修繕に備えた積立金の確実な計上
	堅実なバックアップ施設	①緊急時等の神戸光生園による速やか且つ臨機応変な対応 ②安定的な支援体制の確立（支援員の育成）
人材育成	基本理念の理解	①理事長による理念理解研修の実施（1回/年） ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（3回/年） ②月刊誌「さぼーと」の定期購読
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1回/年） ②月1回定例の世話人会議を実施、支援方法や利用者対応についての相談を実施 ③年2回の虐待防止セルフチェックの実施

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 グループホームふくだ

管理者 吉本ひろみ

### グループホームふくだの基本方針

1. 利用者が自分の意思で暮らすことができ、基本的人権が守られる支援を行います
2. 利用者がお互いを尊重し、助け合って生活できるような毎日を目指します
3. 1人ひとりの個性を認め、プライバシーを重視した生活を提供します
4. 地域の中で、社会の一員として「ふつうの暮らしを楽しむ」事を支える支援をします

### 2022 年度の事業計画について

開設 6 年目を迎えるグループホームふくだには、法人内の複数の事業所を日中活動の場として利用されている方が暮らしております。新型コロナウイルス感染症では、そのうち 1 か所の事業所で感染疑い等が発生すると全員に影響するという構図になってしまい、2021 年度には随分と皆さんに不自由な思いをさせてしまいました。どうしようもない事とはいえ、突然にホームから出られなくなる事は利用者の皆さんにとって納得のいかない事であったと思し訳なく思います。ホーム内では比較的和やかに過ごしておられますが、職員の都合が優先してしまっていないか、という心配もあります。まずは安全に事故なく、が第一ですが出来れば「自分の家」と思えるような生活とは？と考え、またそれについて世話人・生活支援員全員が同じ視点で支援が出来るように、コミュニケーションをしっかりと取る事を心掛けます。少しずつ帰省の回数も減っており、益々ホームでの余暇支援が重要となってきますので外部資源も活用しながら充実したホーム生活を送って頂ける事を目指します。

### 1. 事業概要

開設年月日：2017 年 5 月 1 日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業 (第 2 種)	共同生活援助	10 名	知的障害者	2017 年 5 月 1 日

## 2. 2022年度の主な計画と推進策

### (1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
QOL	生活環境の充実	①成年後見制度の活用を奨励 ②家族・後見人・ガイド・事業所との関係性維持・向上 ③利用者の思いの尊重とプライバシーに配慮した生活の提供
	マニュアルの整備	①業務マニュアルと利用者の個別支援マニュアルの定期的な更新 ②統一した支援の実施とホーム会議での共有と検討の実施
	地域との連携	①地域自治会に加入、ゴミ収集箇所の清掃実施や地域行事（夏祭り）等への活動に参加 ②日々のあいさつなどを通じた地域住民との関係性維持
	防災対策	①年2回の避難訓練の実施 ②年1回の防災訓練の実施 ③感染症対策における指針の整備、備品の補充と管理 ④BCP計画の策定
財務	経営の安定	①週7日のサービス提供と、利用率90%維持 ②修繕等に備えた積立金の計上
	バックアップ機能の体制整備	①コーディネーター（サービス管理責任者）配置によるバックアップセンター機能の検討
	業務省力化の推進	①業務日誌とケア記録でのPC活用の検討
人材育成	基本理念の理解	①理事長による理念理解研修の実施（1回/年） ②神戸聖隷ハンドブック・接遇ハンドブックの活用
	専門性の向上	①職員会議での専門研修の実施（3回/年） ②月刊誌「さぼーと」の定期購読
	虐待防止・人権擁護の取組み	①全員参加の内部研修を実施（1回/年） ②サービス管理責任者、管理者による月1回の支援会議の実施、支援方法や利用者対応についてのサポート ③年2回の虐待防止セルフチェックの実施

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 障害者支援施設神戸明生園  
施設長 山本 隆志

### 神戸明生園の基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 「あたりまえの暮らし」と「その人らしい暮らし」の実現を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

ご利用者、ご家族、職員が安心して過ごせる環境（人・物・経営）の実現を目指します。

### 2022 年度の事業計画について

神戸明生園では、ご利用者、ご家族、職員の安全・安心のために、今年度も計画を進めていきます。

寮再編成の案を完成させます。現場支援員がご利用者のために考えた案を一つの形として完成させ、実行に向けた整理を始めていきます。

新型コロナウイルス対策の継続をしつつ、ご利用者への支援を進めるために、外部コンサルテーションを取り入れ、職員のスキルアップにも努めていきます。同時に、コンサルテーションを体験する中で、仕事へのやりがいを感じていただく機会の提供も進めていきます。

一般的な業務に関わる研修については、オンライン研修システムの活用と、研修動画を元にした引き続き小グループでの研修を行います。

ご利用者・職員・ご家族が共に笑顔になれるように、支援現場からの意見を取り入れた計画実施を進めます。

### 1. 事業概要

開設年月日：1991年9月1日

種 別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設（第1種）	施設入所支援	60名	知的障害者	2015年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	生活介護	80名	知的障害者	2015年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	短期入所	10名	知的障害者	2015年10月1日
公益事業	日中一時支援	—	知的障害者	2015年10月1日

2. 第4期中期計画と推進策

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念の 実践と継承	基本理念研修を開催し、日常支援を理念の視点で振り返りを行う	① 基本理念研修の開催（年1回） オンラインで行い、録画し当日参加者以外も視聴する
		② 平和を求める祈りの唱和（コロナ禍のため、黙読）（週1回）
神戸明生園の 歴史を学ぶ	神戸明生園の歴史を学ぶ	① 歴史資料館の見学に相当する内容の研修を実施（年1回） 神戸明生園の建設の経緯を学ぶ

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
施設の更新	施設内の各種マニュアルの更新	① 各種マニュアルの作成・更新（年1回）
施設内研修の提供	施設内研修の実施	① 施設内研修の実施（年6回） 小グループ研修の実施 感染症研修の実施
人材確保への動き	各種学校より実習生の積極的な受け入れの実施	① 実習生の受け入れの継続実施
人材確保への動き	職員寮の提供	① 借上げ実施（年4室）
	契約職員の補強	① 契約職員の補充を行い、不足人員の確保を行う（年3名）

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
への対応 高齢 重度化	生活スペースの再整理	① 委員会開催（年6回） 寮再編成案の作成完了を目指す
	PTとの連携	① PTとの連携により、安全な支援環境の提供を進めていく（9月）
標準化された支援の提供	マニュアル内容の更新	各種マニュアル作成・更新（人材確保育成と同一）
	チェックリストの継続的实施	① 継続実施（3か月毎）
	コンサルテーションの導入	① 困難事例へのコンサルテーションの活用を行う（年4回） ② コンサルテーションを通して、支援技法の向上を目指す ③ 外部機関との連携を深めご利用者・支援員の笑顔を増やす
改善 虐待防止・接遇	接遇研修の実施	① 研修開催（年2回） オンラインを活用し実施する
	スローガンポスターの掲示と更新	① スローガン掲示と更新（3か月毎）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
金実施 計画的な積立	積立金の継続実施	① 積立金の計上 予算達成を目指す
理 建物設備等の維持管	計画的修繕の実施	① 新館ボイラー・内線電話の更新（10月） ② 経年劣化している公用車1台の入れ替え（7月） （中古車の予定）

(5) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
立 計 事 画 業 の 継 続 の 確 続	災害時 BCP の作成	① 感染症蔓延時の BCP 完成 (9 月)
化 災 害 時 対 応 力 の 強	備蓄品の強化	① 不足備蓄品の購入 (10 月) 備蓄品の見直しと更新
	福祉避難所運営マニュアル策定	① 感染症蔓延下でのマニュアル案の改定 (9 月)
の ワ ク ク ラ イ フ バ ラ ン ス の 確 保	業務省力化の実施	① IOT 機器の追加導入 (9 月) 眠りスキヤンの追加
	パートタイムワーカーの充足	① 食事支援時のパートタイムワーカーの充実

(6) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
会 し と あ の わ 連 せ 携 の 強 村 化 医 療 療 福 福 祉 祉 部 部	医療福祉部会への参加	① 参加情報共有 (年 4 回) 医療福祉部会内の研修参加



## 2022年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホーム ケアホームきたすま  
管理者 山本 隆志

### ケアホームの基本方針

1. 一人ひとりが神様に生かされている存在であることを深く思い、愛の眼差しをもって利用者支援にあたります。
2. 利用者の心に寄り添い、「感動」を生み出すサービス提供に努めます。
3. 日常のなかに「新たな発見」を感じる敏感さと一歩先に踏み出すプロアクティブな気持ちをもって仕事に取り組みます。
4. 利用者が地域の主体であることをともに感じる事ができる支援を目指します。

### 2022年度の事業計画について

少人数での静かな地域生活を行っている「きたすま」においては、安定継続した日常生活を提供できるようにします。

高齢になった入居者の生活が可能な限り継続できるように一部の設備改修を今年度も進めていきます。

また、感染症予防の観点から、日中活動場所への通所が困難な状況が時折発生するので、支援体制の強化が喫緊の課題です。職員の増強を図り対応をしていきます。

オンラインでの研修実施、研修動画の視聴を進めていき、新たな情報等の習得を継続していきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2009年3月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	5名	知的障害者	2015年10月1日

2. 2022年度の主な計画と推進策

(1) 総合的な課題・対策

区分	課題	具体策
Q O L	高齢・重度化への対応	① バックアップ施設との連絡を密に実施 神戸明生園及び、聖隷総合相談センターとの連携強化を継続 ② 支援体制の増強
	利用者の安全の確保	① 火災訓練の継続 ② 体調不良時の対応力強化
	地域生活の定着	① 近隣との良好な関係維持（近隣住民の入れ替わりのため） ② 移動支援等外部サービス利用の継続
財 務	予算に沿った収入の確保	① 利用率安定維持
	設備改修・永続的運営に向けて	① 積立金の継続的な実施
人 材 育 成	専門性の向上	① オンライン研修の提供 ② 虐待防止の徹底（個別に研修実施） ③ 個別支援計画内容の実効性の向上 ④ 新規職員採用補強（夜間帯含む）

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
神戸市立ワークセンターひょうご  
しごとサポート中部  
神戸障害者就業・生活支援センター  
障害者雇用就業・定着拡大推進事業  
所長 森崎 康文

### センターの基本方針

1. 法人の基本理念のもとに、標記の4事業を一体的・有機的に運営する。
2. 障害者が「1人でも多く、1日でも長く」一般就労できるよう支援する。
3. 個々の訓練生・相談者に適した就職支援・定着支援を継続的に進める。
4. 関係機関との連携の強化に努め、障害者の一般就労の伸展を目指す。
5. 神戸地域における障害者就労支援の中核施設として、その専門性の向上を図る。

### 第4期中期計画のビジョン

就労支援を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

### 2022年度の事業計画について

第4期中期計画の最終年も、新型コロナウイルス対策を講じながら、引き続き就労支援を通して利用者の地域生活を支えるとともに職員が就労支援のエキスパートとして働ける職場づくりに努めていきます。

まず、共通の重点実施項目として人材育成と地域交流について述べます。人材育成では、引き続き、内部研修の充実とオンラインを含めた法人内外の研修を活用することにより、職員の育成および専門性の向上を目指します。また、学んできた内容を他の職員に伝達する機会を設けるなど組織全体としての支援力の底上げを図って行きます。

次に、地域貢献ですが、第4期計画の1年目と2年目については、新型コロナの影響により、ほとんど活動ができませんでした。第4期の最終年は、第3期計画で関係構築ができた近隣小学校への再アプローチを行い、できる限り近隣の他の小中高から少人数での見学を受け入れ、地域に暮らす若い世代への「福祉学習」に貢献します。また、コロナ禍でも可能なこととして、ゴミ拾いなどの地域清掃を定期的に行い、施設周辺の美化に努めます。

続いて各事業ですが、ワークセンターひょうごについては、これまで同様に訓練内容の充実を図りながら、積極的な営業活動を展開していきます。訓練・支援内容については、第4期計画の2年間で取り組んできた物流関係を想定した個別訓練の環境整備、身だしなみ・あいさつ・「報連相」などを学ぶ「ビジネス講座」の定期開催、訓練進捗状況を確認するためのアセスメントツール作成、新規体験実習先の開拓などを引き続き実施しながら、内容のブラッシュアップを図っていきます。その他、コミュニケーショントレーニングの教材作成や物流業・小売業など特定の職種を想定した個別訓練のオプションを増やすなど訓練メニューの充実を図ります。

また、これまでどおり支援対象者は療育手帳所持者が中心になりますが、発達障害や精神障

害（2次障害として）などを学ぶ機会を設けて、より多様な利用者に対応できる素地を整えていきます。同時に、営業にも力を入れていきます。まずは、当センターのパンフレットを刷新するとともに、教育機関や相談支援機関などの関係機関へのアプローチを強化し、担当者との顔の見える関係を構築し、途中入所を含む新規利用者の獲得を目指します。

次に、しごとサポート中部をはじめとする就労相談部門については、第4期計画最終年も、委託事業という性格を踏まえながら誠実に事業を遂行します。また、引き続き、月1回第3土曜日の開所を継続しながら、利用者にとって利用しやすい身近な相談機関を目指します。

最後に、中部在宅障害者福祉センター2階の共通課題として職員の過密状況があります。新型コロナウイルス感染防止対策と事務所をより働きやすい職場環境に改善する観点から、事務所の有効活用を目指します。今年度は、ひょうご障害者相談支援センターをはじめとした生活相談部門の職員と共にプロジェクトチームを立ち上げ、費用面、環境面の課題を整理し、より良い職場環境の実現のための検討を開始します。

## 1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種 別（定款）	事 業 名	定 員	主たる対象者	開設年月日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労移行支援事業 －神戸市立ワークセンター ひょうご－	30名	知的障害	2006年10月1日
障害福祉サービス事業（第2種）	就労定着支援事業	－	知的障害	2018年8月1日
公益事業（市委託）	相談支援事業 －しごとサポート中部－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	1996年4月1日
公益事業（国委託）	相談支援事業 （雇用安定） －神戸障害者就業・生活 支援センター－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日
地域生活支援事業 （県委託）	相談支援事業 （生活支援） －神戸障害者就業・生活 支援センター－			
公益事業 （県補助事業）	職場開拓事業 －障害者雇用就業・定着拡 大推進事業－	－	身体障害者 知的障害者 精神障害者	2004年7月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
法人理念の共有を通じた支援力の向上	【共通】 法人内部研修への積極的参加	① 法人内研修への参加（各職位別研修、理念研修など）
	【共通】 聖隷ハンドブックの活用	① ハンドブックを活用した職員によるお話
	【共通】 法人理念の共有	① 全体職員会議での理念唱和 ② ハンドブック活用

### (2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
職員の育成と定着	【共通】 内部研修、外部研修の効果的な活用	① 外部研修参加 ② 内部研修実施 ③ 就業支援アドバイザーの活用 ④ 虐待防止事例検討会の実施（年2回）

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
安定した就労及び地域生活の支援	【ワーク】 訓練内容の充実	① 訓練内容のブラッシュアップ ② 体験実習先開拓 ③ 障害についての勉強会
	【共通】 職場定着支援の継続	① 在職者交流会の実施（年4回） ② ドリーム、ほっとロビーの実施 ③ 就労定着支援事業の実施(定着交流会の実施)
	【就労】 利用者・相談者の利便性向上	① 土曜開所継続（月1回開所） ② 土曜開所回数の見直し
	【就労】 就労相談支援の充実	① 生活困窮者等支援及び地域関係機関支援 ② 現況調査（葉月作戦）の継続（年1回）
	【共通】 支援マニュアルの整備による円滑な業務遂行	① マニュアル作成、運用と見直し
	【共通】 ワンストップサービス機能の拡充	① 生活、発達、就労の一体的な相談支援の現状把握 ② 具体的なケースを通じた支援のあり方の考察
権利擁護と支援の質の向上	【共通】 虐待防止セルフチェックリストの実施	① チェックリストの実施
	【共通】 顧客満足度調査の実施	① 調査実施と集計
	【共通】 虐待防止研修	① 虐待防止研修の実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
指定管理者としての継続更新するための誠実な事業遂行	【共通】 事業内容の充実と誠実な遂行	① 関係機関との連携会議の開催 ② 神戸市トライアル実習、訓練雇用の実施
安定的な経営の持続	【ワーク】 積極的な営業活動	① 見学受入 ② 学校等訪問 ③ HP更新と内容の充実 ③ 途中入所者の確保（3名/年）
	【ワーク】 利用者の出勤率と職場定着率の向上	① 出勤率（在籍数ベース9割以上） ② 定着率（定着支援利用者：90%以上、定着支援終了者：42月以上78月未満 75%以上）

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域福祉の拠点施設としての役割を果たす	【共通】 地域交流の継続	① 地域交流の継続 ② 地域清掃活動（年6回）
	【就労】 地域内の関係機関の支援力向上	① 中部ネットワーク会議（年3回） ② 6者会の開催（年6回） ③ 就業支援基礎研修（年1回）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2022 年度計画
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">重視した働きやすい職場づくり ワークライフバランスを</p>	<p>【共通】 ワークライフバ ランスを意識し た働き方の励行</p>	<p>① 超過勤務、有給休暇取得の状況確認 ② 職員面談の実施（年 4 回）</p>
	<p>【共通】 職場環境の整備</p>	<p>① 職場環境改善委員会（仮）の立ち上げ ② 委員会での課題検討</p>



## 2022 年度事業計画

グループホームアリエッタ北須磨  
施設長 森崎 康文

グループホームアリエッタ北須磨の基本方針

1. 利用者一人ひとりの人権と主体性を尊重した支援を行います。
2. 利用者が元気に職場等に出かけ、安心して帰って来ることができる“心の拠りどころ”となり、「一日でも長く」働き続けられるように支援します。
3. 地域と連携し、地域に根ざしたホームとなるよう努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

就労支援（と生活支援）を通して、すべての利用者が、“自分らしさ”を大切に、住み慣れた地域で暮らせるよう努めます。また、職員が仕事に誇りを持ち、いきいきと利用者支援を行える施設を目指します。

### 2022 年度の事業計画について

2022 年度は、就労障害者を対象としたワンルーム型グループホームとして開設し、3 年目となります。今年度も、利用者のプライベートな時間を大切にしながら、必要に応じて職場や生活面での困りごとに対応することで、障害のある一人ひとりの職業生活をサポートしていきます。

まず、コロナ禍においては、引き続き食事の個室対応などの感染対策を講じながら、利用者の健康の確保に努めます。また、昨年度着手し始めた「1 週間のスケジュールの確立と障害特性に配慮したスケジュール提示」の中身をより具体化し、グループホームでの生活をよりいっそう安定したものになるように努めます。また、引き続き、利用者の年齢や潜在能力を踏まえながら、生活力（洗濯、掃除、食器洗いなど）の向上に向けた取り組みを継続します。グループホームの生活を通して生活力の向上を目指し、一人でも多くの方を一人暮らしなど次のステップにつなげていきたいと思えます。また、生活力という面では、夜間支援がない施設という性質からも、緊急時の対応力がとても重要になります。昨年度実施した避難訓練についても定期的の実施し、緊急時の対応に対する入居者への意識づけを図ります。

また、スタッフミーティングの機会を増やし、職員間の意思疎通をより円滑に図るとともに、内部研修等の実施により、統一したより良い支援の提供も目指します。

最後に、地域交流ですが、コロナ禍によりこれまで十分な取り組みができておりません。今年度こそは、友が丘及び多井畑地区の地域行事に可能な限り参加し、アリエッタ北須磨が地域の一員として認知してもらえるように努めます。

## 1. 事業概要

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開設年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	10名	知的障害	2020年1月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
法人理念の共有を通じた支援力の向上	法人内部研修への積極的参加	① 法人内研修への参加（各職位別研修、理念研修など）
	聖隷ハンドブックの活用	① ハンドブックを活用した職員によるお話
	法人理念の共有	① 職員会議での理念唱和 ② ハンドブック活用

### (2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
職員の育成と定着	研修の効果的な活用	① 内部研修への参加 ② 外部研修への参加
	権利擁護の推進	① 虐待防止研修等への参加 ② 虐待チェックリスト（セルフチェック）の実施

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
利用者の生活の安定	マニュアルの整備	① 基本的な生活支援のマニュアル ② 個別のスケジュール作成
	健康管理	① 医療機関との連携による適切な健康管理
	防災対策	① 消防設備点検（年2回） ② 避難訓練等の実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
安定的な経営の持続	収支の改善	① 稼働率の把握 ② 宿泊回数が少ない利用者への利用勧奨
	堅実なバックアップ体制構築	① 緊急時等のワークセンターひょうごによる速やかな対応とフォロー

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2021年度計画
地域とのつながりを つくる	地域との連携	① 地域でのイベント等への参加・協力

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2022 年度計画
重視した働きやすい職場づくり ワークライフバランスを	ワークライフバランスを意識した働き方の励行	① 超過勤務、有給休暇取得の状況確認 ② 職員面談の実施（年2回以上）

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
ひょうご障害者相談支援センター  
神戸市障害者基幹相談支援センター  
神戸市発達障害者中部相談窓口  
所長 森崎 康文

### センターの基本方針

#### 【ひょうご障害者相談支援センター】

1. 障害のある方（以下、「相談者」という）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が住み慣れた場所で暮らせるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を行います。
2. 支援者が困難を感じる事例への対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。
3. 障害の有無に関わらず、住み慣れた場所で安心して暮らすことができるよう、関係機関との協働のもと、区自立支援協議会事務局として協議会の活発な運営を担います。
4. 兵庫区障害者地域生活支援拠点として「見守り支援事業」では、障害者の見守りを各関係機関と連携しながら行い、相談支援機能と地域社会資源の連携体制の構築に取り組みます。また災害時の要援護者支援として基幹福祉避難所の避難訓練に参加し、「地域支援機能強化事業」では障害者の地域移行の推進、地域生活が継続できるよう支援します。

#### 【神戸市障害者基幹相談支援センター】

1. 市内の特定相談支援事業者の統括および、区自立支援協議会と市自立支援協議会・障害者施策推進協議会の連携に向けた後方支援等を行うことにより、神戸市の相談支援体制の強化に貢献します。
2. 兵庫県下の各圏域との協働を通して、人材育成を含めた神戸市の相談支援体制の拡充と強化、新カリキュラムに基づいた初任者研修、現任研修、主任相談支援専門員研修に協力します。

#### 【神戸市発達障害者中部相談窓口】

1. 発達障害のある方（以下、「相談者」という。）の意思と人権を尊重した上で、相談者やその家族等からの相談に誠実に対応し、相談者が自立した地域生活と社会参加ができるよう、関係機関と連携しながら、公正・中立な相談支援を提供します。
2. 困難ケースへの対応や、タイムリーな相談支援を行えるように、職員一人ひとりが専門性を高めるとともに“組織による支援”を行います。

### 第4期中期計画のビジョン

障害のある方が安心して地域生活を続けていけるような身近な相談機関としての役割を担います。

## 2022年度の事業計画について

神戸市内の各区に地域生活支援拠点が整備され、当センターも相談者が安心して地域で暮らせるよう継続した支援を行っていきます。また、地域生活支援拠点の役割りとして相談支援機能と緊急時の短期入所等の活用、地域社会資源の連携体制の構築、見守り支援事業にも取り組み、今年度から新たに地域移行支援強化事業として地域移行を推進し、関係機関とのネットワークの構築を図ります。

障害者相談支援センター、基幹相談支援センター、発達障害者中部相談窓口の共通の課題として、新型コロナウイルス感染防止対策と事務所内の働きやすい環境整備のため、事務所の有効活用に取り組みます。ワークセンターひょうごを含めた他部署の職員と一緒にプロジェクトチームで定期的に検討会を行い費用面、環境面の課題を整理し、より良い執務環境の実現を目指すよう精査します。

最初に障害者相談支援センターは、災害時要援護者支援の一環として区内4か所の基幹福祉避難所と連携した避難訓練に参加し、障害者理解を深められるよう働きかけます。また、地域ニーズの把握については、区自立支援協議会の部会活動の事務局としての役割を担い、「ほっとかへんネット兵庫」では積極的に実務者会や相談支援プロジェクトに参画します。引き続き調査業務は区との連携を密に行いながら、一般相談支援、計画相談支援も行っています。

次に、基幹相談支援センターでは、市内特定相談支援事業所の質向上のため「市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会」を開催し、相談支援専門員のスキルアップと事業所間の連携強化を図ります。新型コロナウイルス感染防止の観点から少人数分散化で複数開催にする等、安心して参加ができるようにします。初任者研修修了者を対象にファーストレベル研修を行い、相談支援専門員のフォローアップにも力を入れていきます。今後も兵庫県下の圏域コーディネーター等と協力しながら、相談支援体制の強化にも貢献します。

最後に、発達障害者中部相談窓口では、今年度から発達障害者支援センターからの委託業務拡充に伴い市内4窓口の中心的な役割として、連絡会や研修会等のコーディネートにも取り組んでいきます。また引き続き地域活動支援センターと連携してケースの困りごとを共有できるよう定期的なアプローチを続け、顔の見える関係が築けるよう働きかけ、グループセッションやペアレントトレーニングへの参加をしていきます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2002年7月1日

種別（定款）	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
相談支援事業（第2種）	一般相談支援	—	身体障害児・者	2002年7月1日
	特定相談支援	—	知的障害児・者	
	障害児相談支援	—	精神障害児・者	
公益事業	神戸市発達障害者中部相談窓口	—	発達障害者	2009年7月1日
公益事業	神戸市障害者基幹相談支援センター	—	相談支援事業者	2012年5月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
法人理念の浸透	神戸聖隷ハンドブックの活用	① 職員会議時にハンドブックを用いたお話しを各職員がする（月/1回）
	法人基本理念の唱和	② 職員会議時に法人基本理念を黙読（月/1回）
	法人理念研修への参加	③ 法人理念研修への積極的な参加（適時）

### (2) 人材育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
職員の育成と定着	多様な相談に応じることができる職員を育成できるよう育成プログラムの活用	① 副主任、機能強化員によるスーパーバイズの定例実施（年/3回） ② 定期ヒアリングを事業責任者が実施し、各職員のメンタルヘルスケア、職場定着を目指す（年/2回）
	内部研修、外部研修の効果的な活用	① 内部研修の実施（年/1回） ② 外部研修の参加（適時）
相談支援専門員の質の向上に貢献する	相談支援専門員の育成、資質の向上	① 初任者研修修了者を対象に、ファーストレベル研修を実施 ② 市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会を実施 ③ 相談支援センターの階層別会議に出席
	圏域コーディネーターとの連携強化	① 圏域コーディネーター連絡会に出席し、兵庫県下の相談支援体系の連携と強化

(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
相談支援の専門性の向上	ケース検討を定期的を実施し職員のスキルアップを目指す	① 区役所での打ち合わせ時にケースの共有と課題整理（月/1回） ② 職員会議時にケース検討（月/1回） ③ 朝礼時のケース共有、報告（毎日）
	発達障害者相談窓口と地域活動支援センターとの連携	① 対象区（兵庫、長田、須磨、中央）の地域活動支援センターを訪問、電話連絡等を通してケース検討（月/3回）
	ワンストップサービス機能の定着	① 生活、発達、就労の一体的な相談体制の調査、現状把握
権利擁護、相談支援の質の向上	虐待防止セルフチェックリストの実施	① 年2回（上半期、下半期）に全職員対象に実施
	顧客満足度調査の実施	① 計画相談者、発達相談継続ケースの対象に実施（年/1回）
	虐待防止研修の実施	① 全職員を対象に事業所内又は神戸市主催の研修会に参加（年/1回）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
指定管理及び委託業務の継続	委託業務の遂行	① 自立支援協議会の事務局としての役割（地域生活） ② 地域生活支援拠点として「見守り支援事業」（地域生活） ③ 地域支援機能強化事業（地域生活） ④ 地域の相談支援体制の強化（基幹） ⑤ 相談窓口機能、委託業務の拡充に伴う窓口機能（発達）
一般相談支援の取り組み	調査業務、計画相談、一般相談支援の取り組み	① 区からの依頼の調査業務（勘案、区分、訪問入浴、移動支援）
	事業所加算の取得、維持	① 事業所加算（指定研修終了職員を配置）を取得、維持
	計画相談支援、一般相談支援の取り組み	① 計画相談 25 件（4 月現在）、上半期目標件数（29 件）、地域移行支援、地域定着支援は必要なケースに適時対応



(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域課題の理解を深める	自立支援協議会の運営、地域ニーズの把握	① 事務局として4つの部会（防災、事業所、活性化、相談）、2つのプロジェクト（ハートンマルシェ、のりあい）、総会、運営委員会の開催
	身体知的相談員連絡会の開催	① 地域課題の抽出（年/3回）
公益的な取り組み	ほっとかへん ネット兵庫への参画	① 実務者会への参加、関係機関との連携強化（災害時支援活動プロジェクトチーム、相談プロジェクトに参加）
	「おいでやすカーニバル」で発達障害者の支援に関わる相談ブースの設置	① アウトリーチの一環として地域交流イベントに参加し、発達障害者中部相談窓口のアピールと啓発（年/1回） （未開催の場合、担当エリアの定時制高校等にアンケート調査を行い窓口の案内、気になるケースを共有し支援機関につなげる）
	基幹福祉避難所開設訓練の実施	① 災害時要援護者支援として区内4か所の基幹福祉避難所の訓練に見学、参加（年/1回）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
ワークライフバランスの推進	有給休暇の取得	① 有給休暇の取得推進（前年度比5%増）
	超過勤務の軽減	① 各職員の超過勤務時間を月/10時間以内
	働きやすい職場環境整備	① 事務所内の有効活用を目指し、費用面、環境面をプロジェクトチームで課題整理

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 ひょうごデイサービスセンター  
施設長 大嶋 信幸

ひょうごデイサービスセンターの基本方針

1. 利用者に重い障がいがあっても、利用者を支える家族も含めて、地域社会で『普通に生きる』ことができるよう、『笑顔と真心』で支援する。
2. 利用者の『人権を尊重』し、『喜びと感動』を生み出すサービス提供に努める。
3. 利用者と家族の悩みや課題をしっかりと受け止め、個別支援計画に基づき、『専門性とチームワーク』による『質の高い思いやりのあるサービス』を提供し、『地域社会に貢献』する。
4. 今までの手段や方法にこだわらず、人の持つ『知恵と無限の可能性』を信じ、『絶えず前進』することに努める。

### 第4期中期計画のビジョン

- ・地域生活支援拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します。
- ・職員が安心して働き続けられる事業所を目指します。

2022 年度の事業計画について

第4期中期計画の最終年度にあたり、これまでの取り組みの振り返りを行い、計画通りに進めているもの、取り組みが不十分であったもの、計画の修正が必要になったものを整理し、ビジョンの実現に向けて一つひとつの計画を丁寧に推進していきます。

今年度は人材確保育成の視点で特に課題となっている「職員の知識と技術の向上」に力を入れて取り組みます。まずは欠員状態が続いている支援員を補充し、エルダー制度を用いて丁寧な人材育成を行い、技術面だけでなく精神面のサポートを行うことで新着職員の定着を図ります。次に、支援の標準化に向けて、整備した各種マニュアルの再確認を行い、新着職員だけでなく全職員に改めて周知していきます。そして、外部研修や内部研修を通して、介護技術を始め、個別支援計画や記録の作成等、基本的な知識の向上を目指します。これらの計画を確実に推進することで支援力の底上げに繋げていきます。

また、知識や技術だけでなく、私たちの基盤となる法人基本理念についても、引き続き外部講師を招いた研修やハンドブックを活用した学びを通して、理念への理解を深めます。

厳しい状況が続いている収支バランスについては、経営改善に向けた課題を明確にし、今まで担ってきた役割と今後求められる役割を精査し、将来を見据えたひょうごデイサービスセンターの在り方を検討していきます。

多くの課題はありますが、引き続き感染対策を継続しながら安心してご利用頂けるサービスの提供に努め、ビジョンに掲げた「地域生活支援拠点としての役割を果たし、利用者とその家族が安心して地域生活を続けられるように支援します」の実現に向けて、職員全員で取り組んで参ります。

## 1. 事業概要

開設年月日：1996年5月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	25名	身体・知的障害者	2006年10月1日
老人デイサービスセンター(第2種)	共生型通所介護		要介護高齢者 障害者	2018年9月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	10名	身体・知的障害者	2006年10月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	重心・生活介護	20名	重症心身障害者	2012年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	短期入所	6名	身体・知的障害者	2016年4月1日
公益事業	日中一時支援		身体・知的障害者	2018年10月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
理念の理解を深める	理念研修の実施	外部講師を招いた研修	①外部講師を招いての研修実施(年2回)
	職員リードによる法人基本理念、ひょうごデイサービスセンター基本方針の唱和	職員のリードにより週1回法人基本理念、ひょうごデイサービスセンター基本方針の唱和	①法人基本理念及びひょうごデイサービスセンター基本方針を毎週月曜日の朝礼で輪読 ②夜勤専任者会議での輪読
	神戸聖隷ハンドブックを用いた分かち合い	神戸聖隷ハンドブック輪読と分かち合い	①神戸聖隷ハンドブックの輪読と分かち合い(年10回、セッションごと2か月/回)
	接遇ハンドブックを用いた勉強会	接遇ハンドブックを用いた勉強会	①接遇ハンドブック等を用いた勉強会(年3回) ②振り返りアンケート実施

## (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
安心して働ける職場環境づくり	職員の知識と技術の向上	外部研修への参加	①外部研修参加（年12回）
		内部研修の実施	①内部研修（年4回） ②外部研修受講者による報告会
	身体的・精神的負担の軽減	エルダー制度の確立・運用	①継続した運用、見直し
		介護福祉機器等の運用・検討	①導入済み福祉機器の有効的な活用方法を検討・試行
		職員の不安の把握、対応策の検討、実施	①職員の不安の把握継続 ②職員アンケートの結果に基づき対応策検討

## (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
サービスの質と量の維持・向上	マニュアルの作成・更新と有効的な活用	エルダー制度と連携したマニュアルの活用	①マニュアルの活用方法の検討 ②携帯用共通マニュアルの作成・配布
		支援の標準化を目指したマニュアルの活用、見直し	①マニュアルの更新 ②活用方法の見直し
	医務機能の維持・強化	医務ミーティングの開催	①医務ミーティングの定期開催（月1回）
		ひょうごデイ全体での協働体制の確立	①協働体制の準備・試行
	利用者支援の再考	送迎・入浴等支援業務の見直し	①ひょうごデイ全体での相互協力体制の検討 ②事業所間の業務体験実習を実施

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画	
収支バランスの健全化	日中活動利用を視野に入れたアクシスひょうごの計画的な受け入れ	ひょうごデイ、他事業所利用者の日中利用促進とそのため受け入れ調整	①将来を見据えての短期入所利用を推進 ②計画的な受け入れによる日中活動プラス利用促進	
	利用率安定のための待機者確保	受け入れ可能になった時に備えた待機者確保、待機者のスポット利用のお誘い	①待機者リストの作成 ②関係機関との連携による新規利用者の発掘	
	一日の受け入れ人数増のための事業所内整備	受け入れ可能人数増のための事業所内整備	①障害特性に合わせた快適な環境の整備	
	コスト削減を含めた収支バランス健全化の全体での周知徹底		コスト削減	①昨年度実施した削減項目への取り組み継続 ②経費削減の意識を高める啓発活動の実施
			利用者費用負担の伴うオプションサービスの実施	①2021年度で取り組み終了 (検討した結果、利用者費用負担によるオプションサービスの実施は見送り)

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
地域へのニーズを把握	地域との交流からニーズを把握	交流プログラムの企画・作成・実施	①「トライやるウィーク」の受け入れ ②地域交流プログラムの検討及び作成

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	計画内容	2022年度計画
ワークライフバランス向上への取り組み	業務プロセスの見直しと構築	業務内容の洗い出し、業務分担の見直し	①アクシス入浴業務体制の確立 ②業務分担の見直し
		パソコン共有データファイルの整理	①データファイルの整理 ②整理方法ルールの見直し・改訂
		ICT化等による環境の整備	①情報収集・導入品検討 ②ケア記録等のExcel入力化
	有給休暇取得方法の見直し	有給休暇取得状況の把握と計画的取得	①希望有休アンケート実施（年度当初） ②アンケート結果を反映させた勤務シフト作成
リスクマネジメントの強化	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	緊急ショートステイ受け入れ体制の整備	①マニュアルの更新 ②年末年始緊急受け入れ体制の構築
	夜間緊急時の対応の整備	通常夜間緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施
		一人夜勤緊急時の対応整備	①マニュアルの更新 ②緊急時の課題抽出及び対応訓練の実施

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸市立自立センターひょうご  
施設長 大森 陽子

神戸市立自立センターひょうごの基本方針

1. 利用者の人権を尊重し、『心の声』に耳を傾け、寄り添い、共に歩みます。
2. 利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支えるため、『福祉のプロ』集団として、個々の専門性を高め、チームワークによる質の高いサービス提供を目指します。
3. 地域の社会資源として、諸機関・諸団体と連携し、地域福祉の向上に努めます。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者・家族の今日と明日<sup>あす</sup>を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなります

2022 年度の事業計画について

第4期中期計画の最終年度となる今年度は、これまでの取り組みを振り返り、それぞれの計画のゴールに向かって、歩みを進めていきたいと思えます。

特に力を入れて推進する計画は3つあります。1つ目は、職員の支援力向上のための取り組みです。ご利用者が重度化・高齢化する中で、食事や移動、排泄などの支援を行う場面が増えており、そういった場面での介護技術、支援の質の向上が、ご利用者のQOLの向上に繋がっていると感じます。昨年度は移動支援技術の向上に取り組みましたが、今年度も専門職（理学療法士）による内部研修を継続して行い、ご利用者・職員ともに安全で快適な移動支援への学びをさらに深めていきます。また、プライバシーの視点が特に重要な排泄支援について、支援の質を高めていけるよう取り組みます。支援の個別マニュアルを作成したご利用者については、その内容を職員に浸透させ、どの職員でも同じ支援が確実に行えるようにしていきます。

2つ目は、ご利用者のライフステージを考えた支援への取り組みです。ご利用者の将来を見据え、必要な情報をまとめた自立センター独自の「未来ノート」の様式を完成させましたので、今年度中に全てのご利用者が自分の「未来ノート」を持つことができるよう、ご家族の協力のもと作成していきます。

3つ目は、リスクマネジメントの意識向上のための取り組みです。ひとつの事故が、ご利用者・ご家族の生活に重大なダメージを残してしまうことがあるため、ご利用者が安心・安全にセンターでの生活を送ることができるよう、事故減少に向けた取り組みをさらに進めます。年3回のリスクマネジメント研修（事例検討会）を実施し、事故を未然に防ぐ視点を養っていきます。また、日々の気づきを事故防止に役立てられるよう、ヒヤリハットのあり方についても検討します。

どの計画についても3年間の取り組みの集大成といえる結果を残せるよう、そして、ビジョンで掲げたご利用者・ご家族を笑顔でぎゅっと包み込める自立センターとなれるよう、職員一同心を合わせていきます。

## 1. 事業概要

開設年月日：1996年4月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	60名	知的障害者	2007年4月1日
老人デイサービスセンター(第2種)	共生型通所介護		要介護高齢者	2018年9月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
基本理念に沿った支援の実施	基本理念の勉強会の実施	①基本理念勉強会の実施(年3回) ②勉強会ごとに振り返りシートの記入 ③講師との打合せ
	基本理念の各項目についてのディスカッション	①基本理念の各項目についてのディスカッションの実施(年2回) ②内部研修の実施
	神戸聖隷ハンドブックの輪読	①毎週月曜日に輪読を実施

### (2) 人材育成・定着の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
支援力・専門性を高め合える職員集団となる	自立センター標準マニュアルに沿った支援の実施	①マニュアルの見直し、マニュアルに沿った支援の実施(排泄) ②移動支援研修(応用編)の実施(年2回) ③移動支援セルフチェックシートの実施(年2回) ④アセスメントの実施と個別マニュアルの作成 ⑤プライバシーに配慮した環境整備
	新着職員の育成と定着	①エルダー制度の継続 ②エルダー会議の開催(年4回) ③リニューアルした内容での新着職員研修の実施
	事例検討会の開催	①事例検討会の開催(年2回) ②事例作成、支援経過の報告と共有
	外部研修受講の共有	①研修受講後、朝礼での研修概要報告(全研修対象) ②職員会議での研修報告(ピックアップした研修対象)



(3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
利用者のライフステージを考えた支援の実施	日中活動の充実(満足感のあるサービスを提供する)	①ご利用者のニーズに合った日中活動の定着
	利用者・家族の将来のイメージを明確にする	①「未来ノート」について職員間での共有 ②「未来ノート」を各家庭に配布し記入を依頼 ③年2回のモニタリングを通じ、「未来ノート」を確認し、完成
	虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施	①虐待・不適切ケア評価表に基づく勉強会の実施（年2回）

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
安定的な経営への取り組み	新規利用者の獲得	①各グループの月別利用率の共有と課題の分析 ②新規利用者受け入れのための方策の検討 ③見学・体験実習の積極的な受け入れ ④ホームページを通じた空き情報等の情報発信
	祝日も含めた魅力ある活動の提供	①年間プログラムの策定と実施
	利用日数増加に向けた取り組み	①職制会議・グループ会議を通じて受け入れ体制の検討 ②利用日数増加に向けた取り組みの実施
ハード面の整備	大規模改修に向けた神戸市へのアプローチ	①神戸市との協議 ②トイレの改修（プライバシーに配慮した改修）
	・活動スペースの見直し・整備 ・施設内美化活動	①活動スペースの見直し・整備 ②施設内美化活動の実施（年4回）

## (5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域交流行事の継続	よつば寄席の開催	①よつば寄席の開催（年1回:7月） ②感染対策を徹底した開催
	地域清掃の実施	①月1回の地域清掃の実施 ②施設名等の印字入りビブス着用での清掃

## (6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
働きがいと働きやすさの両立	有給休暇の取得促進計画の策定	①有給休暇取得促進計画の策定・実施
	業務改善の取り組み	①業務改善の取り組み
	ワークライフバランスの取り組み	①ワークライフバランスの取り組みの実施
リスク管理意識の向上	事故・ヒヤリハットの検証と再発防止システムの確立	①事故・ヒヤリハットマニュアルの見直しとマニュアルに沿った実施。 ②再発防止システムの確立 ②ヒヤリハット報告件数の増加に向けた取り組み
	リスクマネジメントの意識向上	①リスクマネジメント研修（事例検討会）の実施（年3回：6、10、2月） ②外部のリスクマネジメント研修への参加

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 ワークセンターわかまつ

施設長 木南 仁

ワークセンターわかまつの基本方針

1. 法人の基本理念に基づき、ご利用者のニーズに即した支援を行います。
2. 個別支援計画に基づき、人権を尊重し支援を行います。
3. 就労継続支援施設として、働く喜び、社会人としての役割などを伝えていきます。
4. “人間力づくり” “こころづくり” “ものづくり” ができるよう支援します。

### 第4期中期計画のビジョン

地域にじわっと浸透する

作業内容が充実する

2022 年度の事業計画について

今年度から新たに神戸市と定期建物賃貸借契約を締結しました。事象に応じて神戸市にしっかりと報告・連絡・相談をしていきます。まだまだ新型コロナウイルスによる影響も予想されますが、感染対策を行ないながら事業を継続していきます。感染症だけでなく自然災害時も想定したBCPの策定についても積極的に取り組んでいきます。

「まつぼっくり」の地域貢献としての取り組み「認知症カフェ」については安定的（毎月第一金曜日）に開催するため、複数名の職員が認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングの取得をめざします。コロナ禍で厳しい状況ですが、大正筋商店街の取り組みにもできるだけ協力し、また引き続きアンテナショップの役割として、ワークセンターわかまつの販売拠点とするだけでなく、法人内の自主製品等の販売も積極的に行ないます。現状の自主製品についてもこれまでの商品から1ランク上の商品となるような取り組みを行ないます。下請作業は依然厳しい状況が続いていますが、新たな企業との取引も視野に入れ、年間の支払工賃額を5,000千円に設定し、ご利用者に出来るだけ工賃の支払いができるように努力していきます。

高齢化、障がいの重度化により様々な困難が生じているご利用者、ご家族に対しても総合的に支援を行っていきます。また、ご利用者の声を大切にするためにも利用者自治会の取り組みを支援し、利用者満足度調査を継続して実施していきます。日々の聖書朗読や神戸聖隷ハンドブックの輪読などを継続し、理念研修も実施していきます。「より良い支援」をめざして内部研修の開催や外部研修の受講も勧めていきます。定期的なマニュアル等の更新や学習会も取り入れていきます。そして職員がいきいきと働くことができるようワークライフバランスを整えるために、これまでの水曜日のノー残業デイに各自もう1日加えることができるよう取り組みを行なっていきます。

## 1. 事業概要

開設年月日：2004年10月1日

種 別 (定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	40名	知的障害者	2011年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
キリスト教福祉の浸透	キリスト教福祉を学ぶ機会の設定 (理念理解定着部会との連動)	①理念研修の実施 理念研修の開催 神戸聖隷ハンドブックの輪読 ②理念部会との連動 キリスト教福祉基礎研修受講、他法人研修への参加

### (2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
保の長期的取り組み	実習の積極的受け入れ	①保育実習、介護等体験実習、福祉体験学習、社会福祉士実習等の積極的受け入れ(随時)
職員のスキルアップ	内部研修の実施や外部研修への参加	①内部研修の実施 講師に依頼し内部研修の実施 事例検討会の実施 苦情解決に向けてのプロセス ②外部研修への参加 市民福祉大学等の受講

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
働く喜びの提供	安定した作業支援の提供	①目標工賃支払額5,000千円/年(利用者39名) 神戸地区施設・事業所への注文販売の継続 下請作業内容(企業)の検討、移行 製菓商品のグレードアップ

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
ご利用者ニーズに沿ったサービスの提供	生活ニーズ支援、社会参加支援の提供	①ご利用者との面談（2回／年）実施 モニタリングの確実な実施。 再アセスメントの実施（継続）。 ご利用者・ご家族の高齢化への対応（取り組み）の継続

(4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
修繕に伴う施設老朽化に計画的な対応	修繕工事の実施	①工事内容の検討 照明機器のLED化に向け、わかまつ内の電気設備の確認 神戸市との連絡・調整
収入増の取り組み	年間営業日と利用率の管理	①訓練等給付費の月毎管理、販売等による休日稼働の実施 利用者自治会の隔月実施、社会活動毎月実施

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域貢献イベントの開催・参加	大正筋商店街が企画するイベントに積極的に参加	①随時、企画に参加 大正筋商店街、株式会社くにつか等の企画イベント
	イベントの企画・開催（部会との連携）	①認知症カフェの実施 参加者増に向けての取り組み 「認知症サポーター養成講座」への複数名受講
ホームページの活用	ホームページの定期更新（イベント企画時の広報活動）	①ホームページの定期更新 まつぼっくりのHPの更新（認知症カフェのアピール）

(6) 人事・労務・危機管理の視点

重点実施 項目	実行計画	2022 年度計画
事故・災害時への 対応準備	大災害発生時の 対応準備	①マニュアルの更新 ②BCP(事業継続計画)の作成に向けた取り組み
	防犯対策の整 備	①防犯対策学習会の実施 (1回/年)
労務、 役割の 分散	有給消化率の UP (取得率 50%以下の職 員)	①2021 年度取得日数より 1 日増 (取得率 50%以下の職員)
	ノー残業デイ の週 2 回実施	①ノー残業デイの週 2 回の履行に向けた取り組み ・確実に毎週水曜日の履行をめざす ・各職員に水曜日+1 日 (曜日) を決めてもらい履行する

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 せいれいやさかだい  
施設長 岩井 誠一

### せいれいやさかだいの基本方針

1. 基本的人権を尊重した支援・サービスを提供します。
2. 小集団において一人ひとりが主体性を発揮し、自己表現できる集団作りを目指します。
3. 企業内事業所として与えられた仕事に責任を持って取り組み、社会参加の喜びを提供します。
4. 生活介護事業（友が丘事業所）のプログラムのオープン活用と、地域に開かれたサービス提供を目指します。
5. 親亡き後の安心、安全な生活実現を目指します。

### 第4期中期計画のビジョン

「利用者の生きがい・やりがい・働きがいを叶える支援と居場所づくり」を目指します。

#### 2022 年度の事業計画について

2021 年度も新型コロナウイルスの影響を受けながらの事業推進となり、目標達成に向けた具体的な推進策実施には至らず、決して満足のいく一年ではありませんでした。幸いなことに、利用者・ご家族・職員で新型コロナに罹患し重症化する方が出なかったことは、せいれいやさかだいに関わる皆さんの感染症対策への取り組みがあつてのことです。2022 年度も引き続き対策を図ると共に、コロナ禍での事業推進を想定し、利用者・職員の安心・安全に配慮を行いつつ「生きがい・やりがい・働きがい」のビジョンの実現を職員一丸となって目指します。

Zoom を活用した 3 事業所間を結んだミーティングを実施し、顔の見える職員関係性の構築を続けることで事業所としての更なる一体感を築きます。また、研修・会議・打合せ等にも利用範囲を広げ、職員の利便性とスキルの向上に繋がるよう取り組みます。

地域貢献の視点では、近隣住民の方から認知症サポーター研修について機会をいただきました。これまで北須磨団地の皆さんに支えられてきましたが、地域の高齢化による不安を伺うにつれ出来ることはないかと思いを巡らせていました。今回の機会を活かし、新たな知識と視点をもって地域貢献と役割に取組みたいと思います。

QOL の視点からは、引き続き利用者自治会活動（ぎんが会）の活動サポート及び活動内容の提案と準備を一緒に進め、利用者の皆さんが主体性と達成感を感じていただけるよう支援します。企業内事業所でもあるシミズ・林タオルからの仕事は、これまで以上に責任をもって取り組み、企業の期待に応えて行きます。引き続き利用者の満足度を高めるため、作業工賃アップに向けて清掃（友が丘敷地・ゴミステーション・ATM）・他企業からの下請け作業・農福連携についてチャレンジを続けます。友が丘事業所においては利用者の高齢化・重度化が進んで行く中での支援・メニュー提供等について検討、利用者一人ひとりに応じた支援提供を行って参ります。

せいれいやさかだいは、利用者一人ひとりの尊厳を大切に、理念の実践を行い、ビジョンの実現に向けた歩みを進めて参ります。

1. 事業概要

開設年月日：1991年4月1日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	就労継続支援B型	15名	知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	15名	知的障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業(第2種)	生活介護	10名	知的障害者	2012年11月1日

2. 第4期中期計画と推進策

(1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
キリスト教福祉に触れて考える機会を持つ	(1)利用者家族の悩みに積極的な支援を実施	①利用者及びご家庭の悩みに対し、積極的支援の提供 ②提供状況について見直しと共有
	(2)学習会・施設見学を通し、キリスト教福祉に触れる機会を確保	①法人内事業所見学の実施（臨時職員全員対象） ②キリスト教基礎研修参加 ③事業所において法人理念やキリスト講座の実施（1回/年）
の更なる活用 (理念・接遇) ハンドブック	(1)唱和・読み合わせに留まらず働きを考える学びの実施	①理念の唱和（毎月曜日） ②接遇のしおり、ハンドブックの読み合わせの実施 （毎日朝礼時、職員会議） ③理念、接遇についての研修実施 ④研修の見直し

(2) 人材確保育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
ル 福祉専門職としてのスキル向上 (知識・支援力)	(1)職員個々のスキルに応じた研修計画立案と自己研鑽の推進 (介護技術・就労・地域生活・資格等)	①研修計画の立案と調整 ・階級、スキルに応じた研修への参加及び調整 ・研修機会に応じて参加 ②市民福祉大学等の研修案内の情報提供と受講推進（通年）



重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
	(2) 障害理解と専門的支援の実践 (ABA、認知症サポーター研修会の内部研修)	① 上野中学教諭の協力のもと障害理解に必要な研修継続 (2回/年 8月、10月) ② 認知症サポーター研修の開催 (2回/年) ③ 研修内容の見直し ④ 研修受講者による情報共有、支援報告の実施
	(3) 研修報告会の実施	① 研修受講者による研修内容の報告 ・ 職員会議にて実施 ② 各研修実施後の効果検証 ・ 研修後のアンケートの実施
職員の課題解決能力の向上	(1) 課題解決に向けた定期的な進捗管理と支援振り返りの実施	① 一般職以上には効果課題の進捗を含む面接実施。(2回/年 6月、12月) ② 臨時、パート職は仕事についての聞き取り等実施 (2回/年 6月、12月) ③ 課題に対する支援の振り返りを会議にて実施。(随時)
	(2) 事業所間の課題理解と支援交流	① 3事業所間の利用者・職員の交流活動の検討と実施 (毎月/職員会議) ② 各事業所の課題について報告と検討 (毎月/職員会議) ③ 活動内容の見直し
	(3) 支援力に不安を持つ者・実習生らへのより丁寧な支援の実施	① 支援員の抱える課題に積極的なアプローチの実施 (グループミーティング、支援会議、ケア会議：随時) ② 実習生の実習課題に丁寧な支援、働きかけ (随時) ③ アプローチの見直しと情報共有、実施(手順書の作成等)

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
作業・生活・活動環境の改善	(1) 各事業所の利便性の向上	① 改善等の執行状況確認 (2回/年 4月、9月) ・ シミズ事業所：各部屋の照明、トイレの快適性を追求 ・ 林タオル事業所：作業効率・衛生面を重視した動線の確認 ・ 友が丘事業所：高齢、重度化対策と備品整備 ② 各事業所の改修改善ニーズの収集、試算と検討による提案を状況に応じて実施

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
	(2) 社会を意識した活動提供	①自治会運営内容の見直し (2 回/年) ②自治会運営方法について利用者、職員間で共有 ③総会の実施 (1 回/年) ④定例会の実施 (1 回/2 ヶ月) ④生活を送る上で必要となる学びの会の実施 (2 回/年)
高工賃獲得を目指す新たな取り組みの検討	(1) 事業所外ワーク (作業) の確保	①法人敷地内 (友が丘 1 丁目) 清掃の実施 (毎月) ②農家支援の実施 (1 回/年 5 月末～6 月 淡路 : 玉ねぎ作業) ③事業所近隣農家訪問 (通年) ④事業所近隣企業訪問 (通年) ⑤農福連携を行っている事業所見学、及び関係者からの情報収集 (随時)
8050 への対応	(1) 独居者・高齢化家族の成年後見制度活用希望者への支援	①制度利用、及び活用の促進 ・成年後見制度に関する用紙の配付 (2 回/年 7 月、11 月) ・家族会のニーズに応じた研修会の実施

#### (4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
活動拠点の堅持と関係づくり	(1) 3 事業所活動拠点の継続	①3 事業所の関係者 (企業、自治会) との関係維持 ②物件情報等収集を継続
	(2) 企業、近隣との関係づくり	①各事業所における関係企業、自治会関係人物への訪問 (1 回/月) ・林タオル販売 ・(株)シミズ ・北須磨団地自治会 ・北須磨児童館 ・竜が台 7 丁目自治会 ②関係者からの要望 (クレーム含む) に迅速に対応
企業内事業所内であるデメリットからの脱却	(1) 高額工賃支給による給付費収入増を目指す	①外部作業の試験的取り組み繰り返し検討 6 月 : 淡路島玉ねぎ作業 9 月 : 事業所近隣からの受注作業 ②作業実施による収入と工賃配分金額の検証 (6 月、10 月、2 月)

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
魅力ある事業所づくり	(1)作業及び活動の取り組み状況を可視化し、利用者に達成感を提供	①月々の売り上げを視覚化する ・工賃をグラフ化して作業室に掲示(1回/月 更新) ②年間予定と月予定の活動内容を確認 ・画像等で内容を保存し、掲示
	(2)事業所の魅力をアピール	①ミニ広報誌<友が丘掲示用>編集と発行(年間6回偶数月) ②広報誌の発行<外部用>(年間2回) ③Facebook、Instagramの更新(年間6回)

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域行事、活動への積極的参加と協力の実施	(1) 地域行事・活動等への参加・準備・協力を積極的に取り組む (行事、活動、清掃活動含む)	①支援者は地域行事へ積極的に参加し、地域との関係性を構築 ・友愛まつり、支え愛・たすけあい学習会(5月:北須磨)、 ・ふる里まつり、安心安全コミュニティー像の集い (8月:北須磨) ・運動会(10月:北須磨) ・クリスマス会(12月:北須磨) ②地域行事、清掃活動に利用者参加の推進 ・寿喫茶(北須磨)、すくすく喫茶(北須磨)、 さくら喫茶(神の谷) ・友が丘交通公園・広場、3事業所周辺、北須磨団地前 バス停(清掃活動)
	(2)地域コミュニティーの活用と関係構築	①地域コミュニティー施設の活用を通して関係者との関係性を向上 ・友が丘地域福祉センター ・老人いこいの家 ②新たな活用方法等について提案と情報発信
	(3)地域高齢者の生活支援要請を活動に反映	①近隣高齢者のニーズ把握を実施 ・民生委員の会合に出席(2回/年) ②北須磨地域のウォーキングを兼ねた地域パトロール、 あいさつ運動の実施 ③AEDの設置

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
関連企業を対象とした奉仕活動の実施	(1)林タオル販売、シミズに対し除草・掃き掃除などの奉仕活動を実施し、更に周辺企業へアピール	①除草、落ち葉掃き、ゴミ拾い等奉仕活動の提供 ・定期的な奉仕活動の実施 ②実施内容の見直し ・実施した内容を振り返り、時間と場所を見直しする。

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
労務環境への配慮と改善	(1)日常的な関り(挨拶・労い)を大切にしたり関係づくりと労務配慮の実践	①訪問、支援ヘルプ等を通して職員との信頼関係と声掛けによる関係づくり(随時) ②労務状態(体調、家族看護、介護等)を早期に把握し、負担軽減等を実施(随時)
労働者へのモチベーション向上	(1)労務状況の改善と効率的な働き方の提供	①行事、活動の計画実施を支援し労いと感想を共有(随時) ②収入を含めた効率的な働き方の提案(随時)
南海トラフ大震災をはじめとする災害への対応と備え	(1)福祉避難場所としての役割	①運用マニュアルの整備 ・地震災害時の対応マニュアル(8月)
	(2)訓練の実施	①訓練計画の作成と実施(2回/年 5月、10月) ②訓練内容の見直し(2回/年 5月、10月)
	(3)備蓄品の確認と補充	①備蓄品管理リストの作成(6月) ②備蓄品のチェックと補充、追加品目の検討(2月) ③地域貢献推進部会との連携(備蓄品情報の提供)

## 2022 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 グループホームのぞみ  
管理者 岩井 誠一

### グループホームのぞみの基本方針

1. 一人ひとりの基本的人権を尊重したサービスを提供します。
2. 利用者の障害特性を理解し「その人らしい暮らし」を共に考え支援します。
3. 一人ひとりが主体性を発揮し、生活の場面で生きがいを感じられるよう支援します。
4. 安心・安全な生活が送れる環境づくりと衛生面の提供を行います。
5. 地域の皆さんとの交流機会を求め、利用者の積極的な関わりと参加に努め地域に開かれた関係づくりをめざします。

### 第4期中期計画のビジョン

利用者・ご家族に寄り添い、互いに笑顔溢れる居場所の創造と提供をめざします。

### 2022 年度の事業計画について

開所から一年が経過。利用者・ご家族の皆さんが当初抱いていた、親子が離れて暮らす新生活への不安や心配は時間と共に和らいできたように思います。今日の状態まで試行錯誤を繰り返しながら、利用者支援に当たっていただいた支援者の皆さんに感謝申し上げます。

2年目のグループホームのぞみは、「その人らしい暮らし」について考え、その思いを実際の行動・活動にしていくチャレンジの一年にしたいと思います。利用者の意向や好みを伺いながら、ホームでやりたいことを一緒に考え、知恵を出し合いアイデアを膨らませる。そうした様子がいつも見られる、わくわくした生活が送れる場所と支援を目指します。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症に罹患し入院する方がホームでも1名でました。それに伴い、健康観察期間として行動制限という不自由な生活をお願いすることになりました。生活の場における感染リスクとその対処法について、知識のみならず実践できるよう備えます。また、週末帰省・送迎バス・日中活動先での感染の可能性に早期に対応できるよう、関係各所の連携も密に行い、安心安全の生活確保に取り組みます。

### 1. 事業概要

開設年月日：2021年4月1日

種別(定款)	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害福祉サービス事業(第2種)	共同生活援助	8名	知的障害者	2021年4月1日

## 2. 第4期中期計画と推進策

### (1) 理念の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
理念	基本理念の浸透	①会議前の理念唱和 ②神戸聖隷ハンドブックの輪読 ③第2回理念研修の実施

### (2) 職員育成の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
職員育成	専門性の向上	①感染症対策・対応に関する研修参加 ②障害特性に関する外部研修へ参加
	事業所内研修の実施	①内部研修の実施 ②法人内グループホーム合同研修の企画・実施 ③職員会議を月1回定例で実施、支援上の課題・対応・業務内容について共有

### (3) QOLの視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
QOL	健康管理	①毎日の健康状態(体重・血圧)の把握 ②必要に応じた医療機関へ受診・通院等の実施
	マニュアルの整備	①業務マニュアルの整備・修正・見直しの実施 ②本人・ご家族からの支援見直し・変更への迅速な対応 ③支援会議の実施
	余暇の充実	①一人ひとりに応じた余暇の提案と支援の実施
	虐待防止・人権擁護意識の浸透	①虐待防止・人権擁護に関する研修の実施 ②セルフチェックの実施 ③成年後見制度の活用促進

### (4) 経営強化の視点

重点実施項目	実行計画	2022年度計画
経営	利用率の安定	①365日開所を基本とし、利用率90%を目指す ②病院受診・送迎を含めた利便性の向上
	バックアップ施設の体制整備	①せいらいやさかだいの日中及び夜間緊急時支援体制を整備し共有

(5) 地域貢献の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
地域貢献	地域の清掃活動への参加	①年 2 回の地域清掃に参加、グループホームの存在をアピール
	地域との連携	①地域コミュニティの利用・夏まつり等の行事参加

(6) 人事労務危機管理の視点

重点実施項目	実行計画	2022 年度計画
人事労務	防災対策	①年 2 回の避難訓練を実施 (9 月・3 月) ②感染症予防に備えた備蓄品の確保 (マスク・ガウン・アルコール等) ③自然災害時に備えた備蓄品の確保 (非常食・水・使い捨てトイレ・ポリタンク等) ④BCP 計画の策定

2022年度 事業計画別表 1(事業目標)

※稼働日数が協定等で定められている事業以外は法定年間稼働日数で利用率を算出しています

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)	定員数	単位=人		単位=%		単位=人	
		利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込
特養 平生園	60	21,243	21,308	97.0	97.3		
" さくらの苑	29	10,373	10,451	98.0	98.7		
GH わらしべ	18	6,439	6,526	98.0	99.3		
入所 恵生園	60	21,445	21,486	97.9	98.1	0	0
" 真生園	60	21,555	21,306	98.4	97.3	0	0
" 神戸愛生園	50	17,338	17,280	95.0	94.7	0	0
" 神戸明生園	60	21,432	21,216	97.9	89.4	0	0
GH グループホームもみの木	5	1,750	1,771	95.9	97.0		
" グループホームかしの木	7	2,370	2,334	92.8	91.4		
" グループホームかしの木Ⅱ	5	1,668	1,701	91.4	93.2		
" めぐみ	6	1,341	914	61.2	41.7		
" せいれいやまて	10	3,211	2,982	88.0	86.0		
" たいのはた東(定員5人+体験1人)	5	1,716	1,653	94.0	90.6		
" 南落合	5	1,602	1,743	87.8	95.5		
" アリエッタ北須磨	10	2,919	2,915	80.0	79.9		
" のぞみ	8	2,458	2,258	84.2	77.3		
" きたすま	5	1,765	1,768	96.7	96.9		
" みなみたもん	5	1,653	1,588	90.6	87.0		
" ふくだ	10	3,395	3,395	93.0	93.0		

短期入所支援事業	定員数	単位=人		単位=%	
		利用延べ人数		利用率①	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込
高齢 さくらの苑	10	3,467	3,376	95.0	92.5
障害 恵生園	3	387	437	35.3	39.9
" 真生園	4	210	448	14.4	30.7
" 神戸愛生園	5	730	658	40.0	36.1
" 神戸明生園	10	2,004	1,355	54.9	37.1
" アクシスひょうご	6	2,411	2,417	110.1	110.4

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業 日中一時支援事業 (日中型事業)	定員数	単位=人		単位=%	
		利用延べ人数		利用率②	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込
通所 さくらの苑	18	4,797	4,692	86.0	84.1
" デイセンターひょうご(共生型)	25	808	578	12.0	8.6
" 神戸市立自立センターひょうご(共生型)	60	143	133	0.9	0.8
生活 恵生園	60	16,356	16,301	101.3	101.0
" 真生園	60	15,887	15,993	98.4	99.1
" 神戸愛生園	60	15,437	15,472	95.6	95.9
" 神戸聖生園	60	14,363	13,722	89.0	85.0
" せいれいやさかだい	25	5,893	5,770	87.6	85.8
" 神戸光生園	54	12,691	11,613	87.4	79.9
" 神戸明生園	80	19,560	19,147	90.9	89.0
" デイセンターひょうご(多機能型)	25	4,676	4,424	69.5	65.8
" 神戸市立自立センターひょうご	60	13,274	12,382	82.2	76.7
" トゥモロー	8	1,504	1,350	78.0	70.3
" インクルージョンひょうご	20	2,590	2,588	48.1	48.1
日中 真生園	5	12	2	0.7	0.1
" 神戸明生園	10	14	8	0.4	0.2
" アクシスひょうご	6	0	0	0.0	0.0
児童 すまいる	20	3,171	2,912	66.9	63.0
" らみい	10	1,851	1,701	70.9	66.2
" エスポワールこじか	10	2,058	2,070	85.8	88.5
" めぐみ	10	1,398	1,203	52.0	44.7

年間稼働日数	2022年度	2021年度
	310日	310日

市との協定日数	2022年度	2021年度
	241日	240日

市との協定日数	2022年度	2021年度
	237日	231日
	261日	257日
	240日	234日



単位＝人

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝人		就労定着支援	
		利用延べ人数		利用率②		就職者数		利用延べ人数	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込
移行 和生園	6	—	1,081	—	67.0	—	3	32	12
〃 神戸光生園	6	255	945	15.8	58.6	1	2	31	19
〃 ワークセンターひょうご	30	2,517	3,790	31.2	47.0	10	12	381	334
相談 しごとサポート中部	—	—	—	—	—	90	85	—	—
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)	定員数	単位＝人		単位＝%		単位＝円		単位＝円	
		利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込	2022年度 目標	2021年度 実績見込
就B 和生園(2021年度34人、2022年度40人)	40	9,745	8,542	90.6	93.4	126	118	17,000	15,773
〃 せいれいやさかだい	15	3,027	2,756	75.0	68.3	54	52	4,900	4,750
〃 神戸友生園	40	8,911	8,629	82.8	80.2	100	100	10,000	10,000
〃 神戸光生園	30	6,870	6,682	85.1	82.8	144	136	14,468	13,585
〃 デイセンターひょうご	10	2,630	2,596	97.8	96.5	159	226	3,000	4,254
〃 ワークセンターわかまつ	40	8,726	8,680	81.1	80.7	114	114	10,170	10,148

居宅介護支援・相談支援	支援内容・対象	単位＝件	
		支援件数	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込
居宅 居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	974	1,183
障害 びあほくたん	障害者	455	473
〃 発達障害者支援センター・ランチ	発達障害者	425	424
〃 エスポワールこじか相談支援事業所	障害児	242	267
〃 恵生園相談支援事業所	障害者	203	203
〃 神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	7,500	7,200
〃 しごとサポート中部	障害者	—	—
〃 ひょうご障害者生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	6,500	6,300
〃 神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	1,010	1,006
〃 きたすま障害者生活支援センター	相談・緊急対応	7,200	8,016
〃 神戸聖隷総合相談センター	相談	670	678

生活援助・介護予防・職場開拓	項目	単位＝件	
		件数	
		2022年度 目標	2021年度 実績見込
障害 あったかプラザ(飲食店)	来店人数	4,398	4,270
〃 障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	400	390

診療所	単位＝人	
	診療延べ人数	
	2022年度 目標	2021年度 実績見込
医療 真生園診療所	1,068	1,068
〃 風クリニック	1,550	1,593
〃 神戸愛生園診療所	3,000	3,000

	2022年度	2021年度
法定年間稼働日数	365日	365日
法定年間稼働日数	269日	269日

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所事業	利用延べ人数÷(定員数×365日)
②日中型事業	利用延べ人数÷[定員数×(365日-8日×12ヶ月)]

※年度途中に開所・閉所の場合、上記計算方法を応用

【例】定員20名の通所事業が1月に開所し、3月までの利用延べ人数が1250人の場合  
利用率=1250人÷(20人×(23日+22日+23日))=91.9%

2022年度 事業計画別表 2 (設備整備計画)

施設名	件数No.	件名	内容概要	整備完了時期 (予定)	事業金額 (千円)	サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
真生園	1	天井走行リフト更新(商業等)	天井走行リフトの老朽化及び修理困難機種 の更新	2022年度中	9,273	生活介護	積立資産取崩収入	なし	
さくらの苑	1	インカムシステム整備一式	職員間のコミュニケーションツールとして、 またナースコールや眠りスキャンと連動させ る事で職員の歩数削減等業務効率化を図 る	2022年12月	2,783	さくらの苑(地域密着特 養)	備品積立資産取崩収入	なし	
さくらの苑	2	介護保険請求ソフトク ライアント更新	2017年5月開設と同時に導入した介護保険 ソフト「ほのほのNEXT」の使用権が5年を迎 えるので端末6台と地域密着特養のライセ ンス更新	2022年5月	1,998	さくらの苑(地域密着特 養・短期入所)	減価償却積立資産取崩 収入	なし	
神戸愛生園	1	天井走行リフト	ご利用者の安全・安楽な介護と、職員の労 働衛生改善のため、1基設置。	2022年8月	1,300	神戸愛生園生活介護	減価償却積立資産取崩	なし	
神戸愛生園	2	業務用洗濯機	汚物用洗濯機が経年劣化のため、更新。	2022年6月	1,400	神戸愛生園生活介護	減価償却積立資産取崩	なし	
神戸愛生園	3	作業積自動ドア	既設のものが故障しており、設置から40年 近く経つため、更新。カバー工法で実施予 定。	2022年10月	1,600	神戸愛生園生活介護	減価償却積立資産取崩	なし	
神戸光生園	1	洗面台自動水栓工事	利用者用2階洗面台を蛇口式からセンサ一 式自動水栓へ取り換え工事	2022年度内	948	生活介護	経常経費寄付金収入	家族会指定寄附金	948
神戸明生園	1	送迎車両整備	法人送迎車両購入	2022年10月	3,500	生活介護	減価償却積立金取り崩し	なし	
神戸明生園	2	新館ボイラー入替	老朽化による新館ボイラーの入替	2022年6月	3,000	生活介護	減価償却積立金取り崩し	なし	
神戸明生園	3	廊下内業務用食器洗浄機入替	老朽化による食器洗浄機の入替	2022年4月	803	生活介護	減価償却積立金取り崩し	なし	
神戸明生園	4	施設内公用車整備	老朽化による公用車入替(中古)	2022年10月	1,000	生活介護	減価償却積立金取り崩し	なし	
神戸明生園	5	眠りスキャン3台整備	利用者の高齢・重度化への安全対策	2023年3月	339	生活介護	減価償却積立金取り崩し	ロボット等導入支援事業	339
神戸明生園	6	施設内固定電話整備	老朽化による施設内固定電話入替	2022年10月	2,640	生活介護	減価償却積立金取り崩し	なし	
神戸明生園	7	オゾン発生器整備	施設内感染予防	2022年6月	総額919千円の内559千 円は固定資産計上	生活介護	総額減価償却積立金取り 崩し	なし	
神戸明生園	8	寮再編成に伴う経費	寮再編成のための設計管理費	2023年3月	1,000	生活介護	運用資金	なし	